

下水道モニター

令和5年度 第2回アンケート結果

下水道モニターアンケート第2回では、「下水道の浸水対策」、降雨情報の「東京アメッシュ」などについてアンケートしました。

- ◆ 実施期間 令和5年7月25日(火)～8月8日(火)の14日間
- ◆ 対象者 東京都下水道局「令和5年度下水道モニター」
※東京都在住 18歳以上の男女個人
- ◆ 回答者数 651名
- ◆ 調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート
- ◆ 内容

I	結果の概要.....	1
1	東京都下水道局が行っている浸水対策の取組.....	1
2	家庭での浸水対策の取組.....	2
3	降雨に関する情報について.....	4
II	回答者の属性.....	7
1	回答者数（性別、年代、地域）.....	7
2	回答者属性別グラフ.....	8
III	集計結果.....	9
1	東京都下水道局が行っている浸水対策の取組.....	9
2	家庭での浸水対策の取組.....	27
3	降雨に関する情報について.....	37

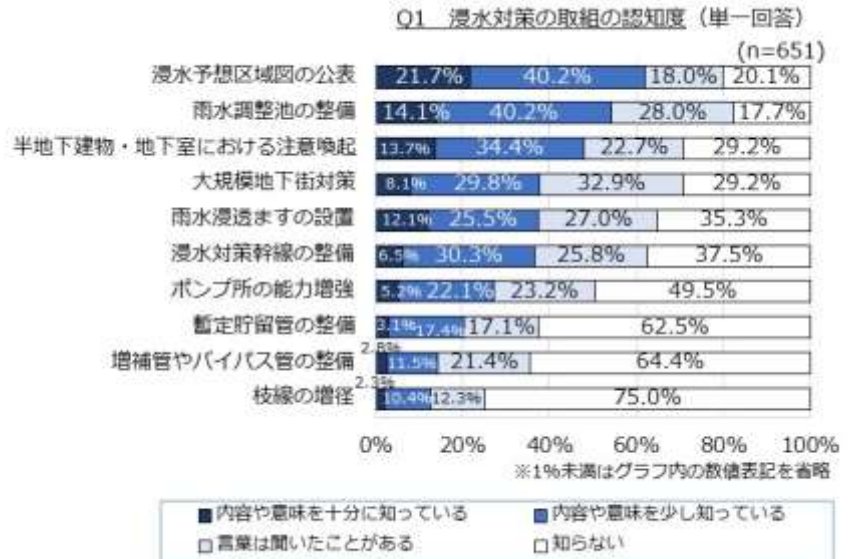
構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない場合があります。

I 結果の概要

1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組

(1) 浸水対策の取組の内容や意味の認知度

局の浸水対策の各種取組への認知度は「浸水予想区域図の公表」が最も高く、次いで「雨水調整池の整備」が続いた。



(2) 浸水対策の取組への理解

浸水対策のイメージと具体策を提示したのち、各取組への理解を尋ねたところ、いずれの取組も約8割から9割が「理解できた」と回答した。



(3) 浸水対策の取組の重要度

各取組をどのくらい重要と考えるかについては、「暫定貯留管の整備」を除く全ての取組で9割以上が「重要」と回答した。



2 家庭での浸水対策の取組

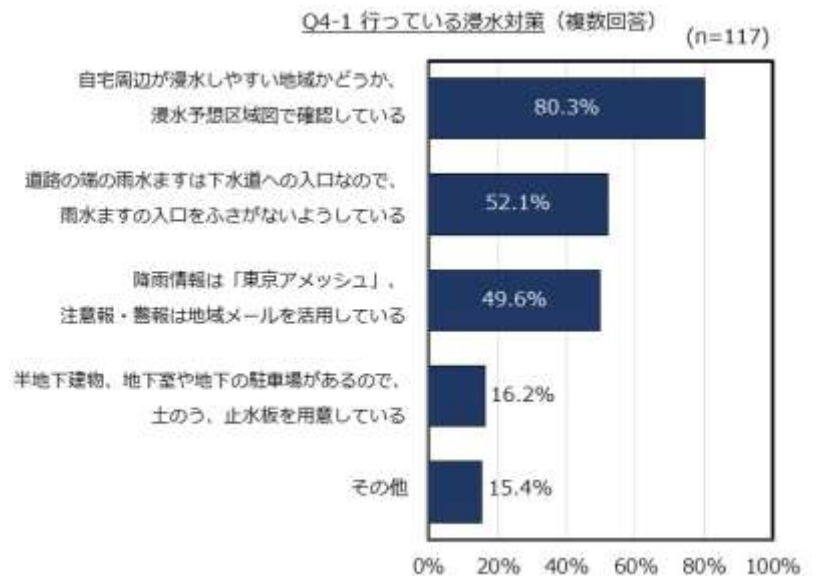
(1) 家庭での浸水対策実施の有無

家庭で浸水対策を実施しているのは、回答者の約2割だった。



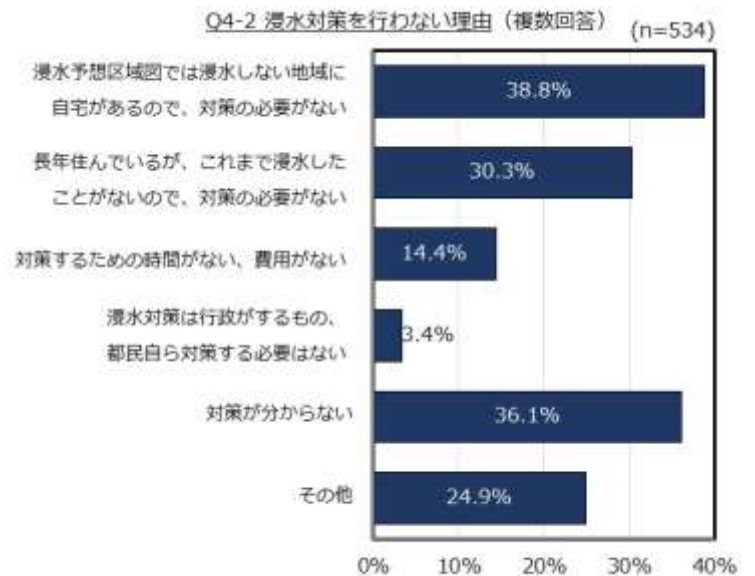
(2) 行っている浸水対策

2(1)(Q4)で「対策している」と回答した117人が行っている浸水対策は、「浸水予想区域図で確認している」が最も多く、次いで「雨水ますの入り口をふさがないようにしている」「東京アメッシュ」や地域メールを活用している」の順だった。



(3) 浸水対策を行わない理由

2(1)(Q4)で「対策していない」と回答した534人の理由は、「浸水予想区域図では浸水しない地域に自宅がある」、「対策が分からない」「長年住んでいるが、これまで浸水したことがない」が多かった。



(4) 下水道局が紹介する浸水対策の認知度

下水道局が紹介している浸水対策は約半数が「知っている」と回答した。



(5) 浸水対策の認知経路

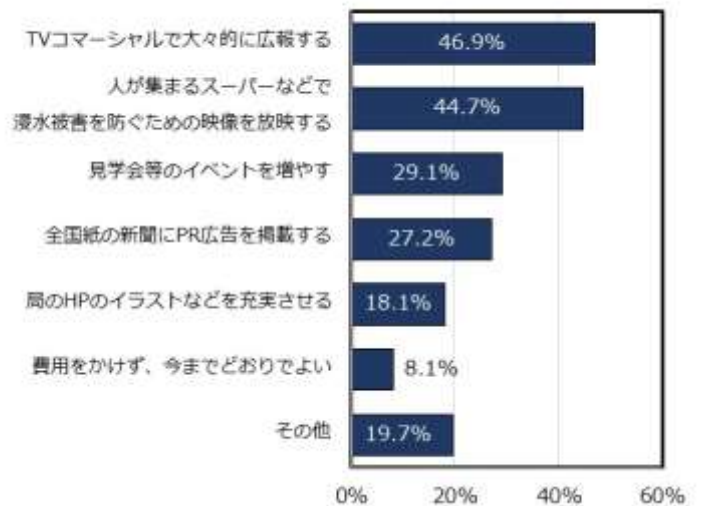
2(4)(Q5)で局が紹介する浸水対策を「知っている」と回答した331人の認知経路は、自治体の広報が約7割、局ホームページが約3割だった。



（6） 浸水対策のPR方法

2（4）（Q5）で局が紹介する浸水対策を「知らない」と回答した 320 人が考える自ら対策をしてもらうための PR 方法は「TV コマーシャルで広報する」や「スーパーなどで映像を放映する」などだった。

Q5-2 自ら対策をしてもらうためのPR方法（複数回答）（n=320）



3 降雨に関する情報について

（1） 「東京アメッシュ」の利用

「東京アメッシュ」の利用経験者は第1回アンケート（「東京アメッシュ」を知っている（利用している・利用したことがある））の24.5%から、58.7%に増加した。

Q6 「東京アメッシュ」の利用（単一回答）（n=651）



（2） 「東京アメッシュ」の利用タイプ

3（1）の利用経験の設問（Q6）で「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 237 人は、「スマートフォン版」の利用が最も多かった。

Q7-1 「東京アメッシュ」の利用媒体（単一回答）（n=237）



(3) 「東京アメッシュ」の利用頻度

3 (1) の利用経験の設問 (Q6) で「利用している (必要な時に利用している)」と回答した 237 人の利用頻度は「週に 1 回未満」が最も多かったが、ほぼ毎日利用しているとの回答も 1 割あった。

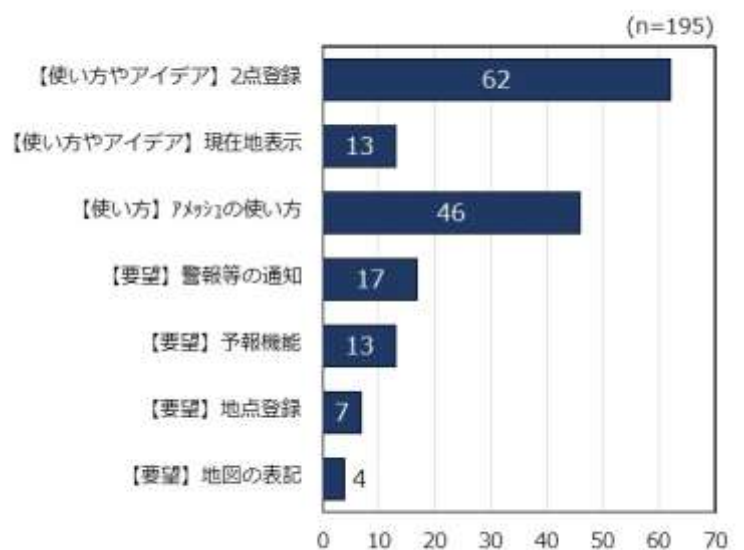
Q7-2 「東京アメッシュ」の利用頻度 (単一回答)



(4) 「東京アメッシュ」(スマートフォン版)の機能活用

東京アメッシュの GPS 機能に関する設問に対して、自由回答は 195 件だった。スマートフォン版の機能を活用した使い方や使い方に関するアイデアと、「東京アメッシュ」の普段の使い方や付加してほしい機能への要望が挙げられた。

Q7-3 「東京アメッシュ」(スマートフォン版)の機能活用 (自由回答)



（5）「東京アメッシュ」を利用しなくなった理由

3（1）の利用経験の設問（Q6）で「利用しなくなった」「利用していない」414人の利用しない理由は「別の気象情報を使用している」が最も多く、次いで「利用方法がわからない」との回答だった。



II 回答者の属性

第2回モニターアンケートは、令和5年7月12日（火）から7月26日（火）まで実施した。その結果、651名の方から回答があった。（回答率 65.5%）

1 回答者数（性別、年代、地域）

性別	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
男性	277	423	65.5%	42.5%
女性	374	571	65.5%	57.5%
合計	651	994	65.5%	100.0%

年代	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
20歳代以下	39	71	54.9%	6.0%
30歳代	114	176	64.8%	17.5%
40歳代	146	227	64.3%	22.4%
50歳代	170	249	68.3%	26.1%
60歳代	126	187	67.4%	19.4%
70歳以上	56	84	66.7%	8.6%
合計	651	994	65.5%	100.0%

地域	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
23区部	317	481	65.9%	48.7%
多摩地区	334	513	65.1%	51.3%
合計	651	994	65.5%	100.0%

※10歳代（18歳及び19歳）と20歳代の回答は「20歳代以下」として集計した。

2 回答者属性別グラフ



III 集計結果

1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組

(1) 浸水対策の取組の内容や意味の認知度

-
- ◆ 下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」、「内容や意味を少し知っている」と「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「(3) 雨水調整池の整備」が82.3%と最も高く、次いで「(9) 浸水予想区域図の公表」が79.9%となった。
 - ◆ 『認知度あり』を男女別では、全体的に、男性の認知度が高い傾向があった。
 - ◆ 『認知度あり』を年代別では、どの対策も年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られた。
-

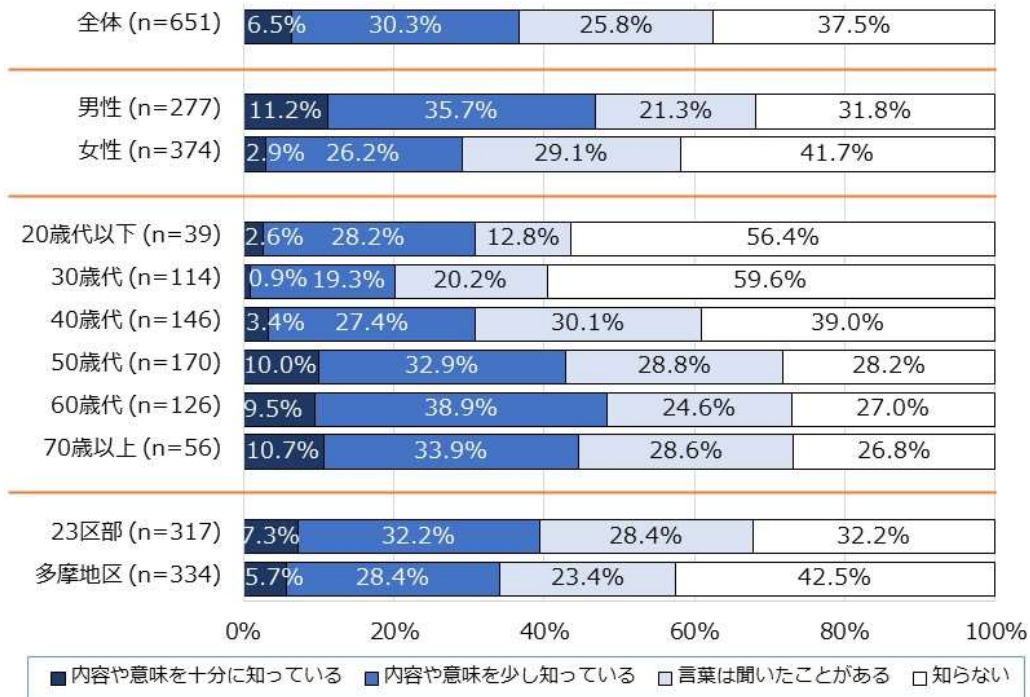
『浸水対策』について

近年、都市化が進んだことによる雨水流入量の増加や頻発する局地的な大雨などによって、浸水被害が発生しています。東京都下水道局では、大雨から街を守るため、下水道管や貯留施設の整備など、下水道による浸水対策を進めています。

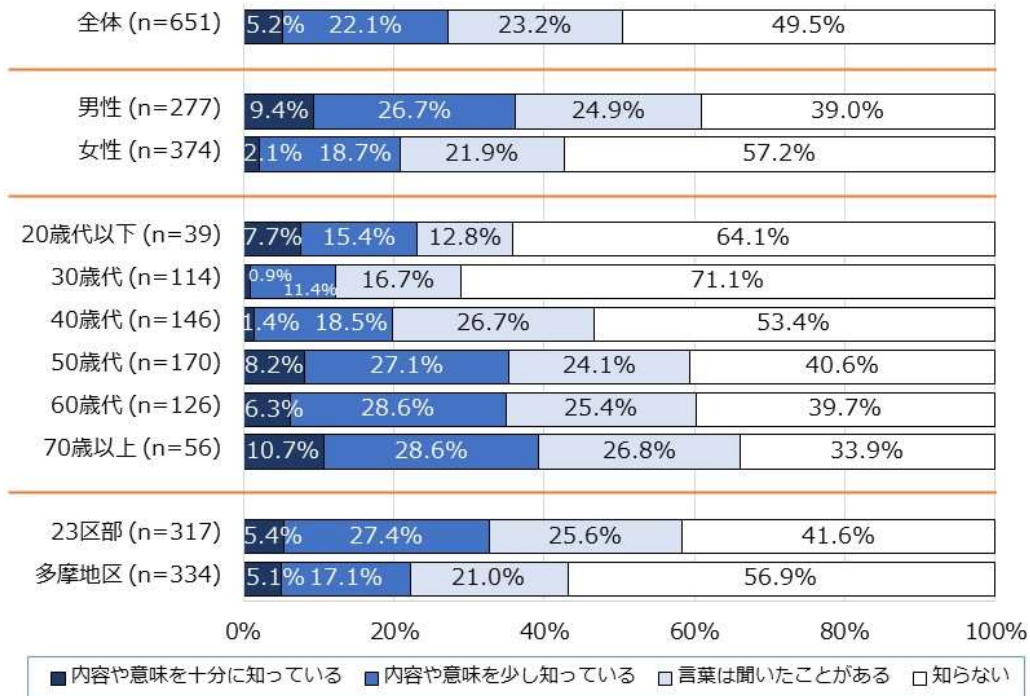
Q1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組について伺います。

最初に、以下のそれぞれの取組について、内容や意味をご存知かどうかについてお答えください。(単一回答)

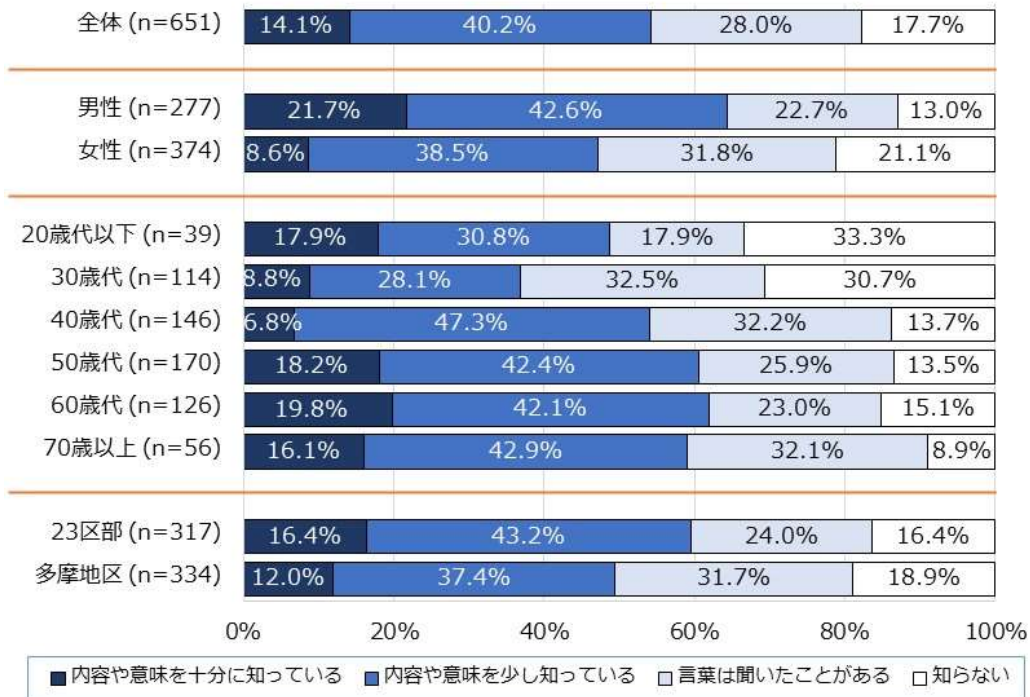
Q 1 - (1) 「浸水対策幹線の整備」の内容や意味の認知度



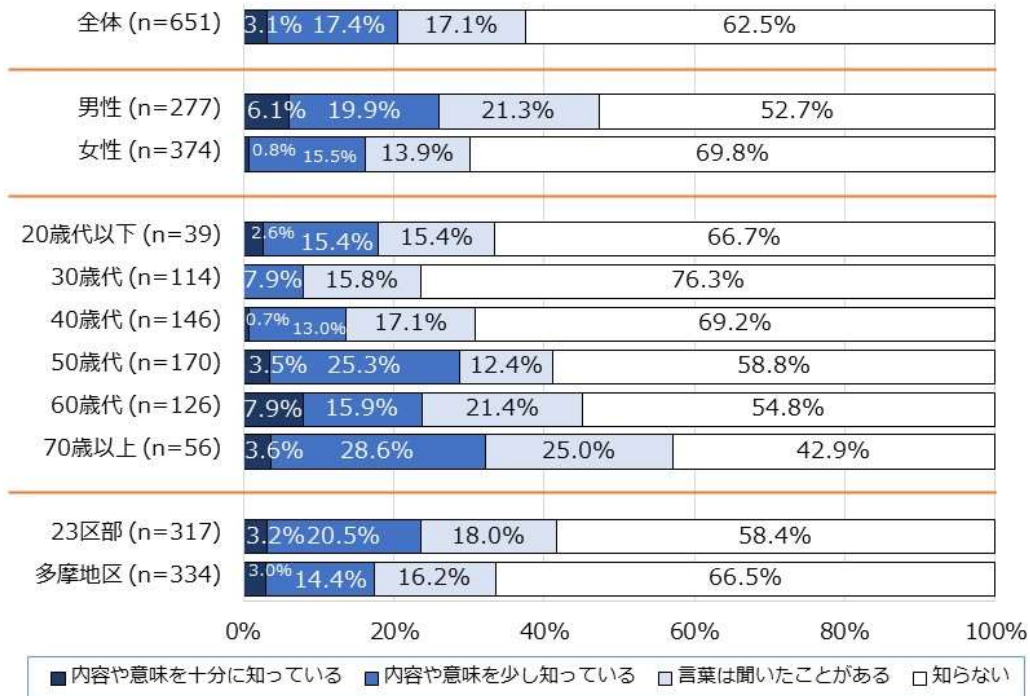
Q 1 - (2) 「ポンプ所の能力増強」の内容や意味の認知度



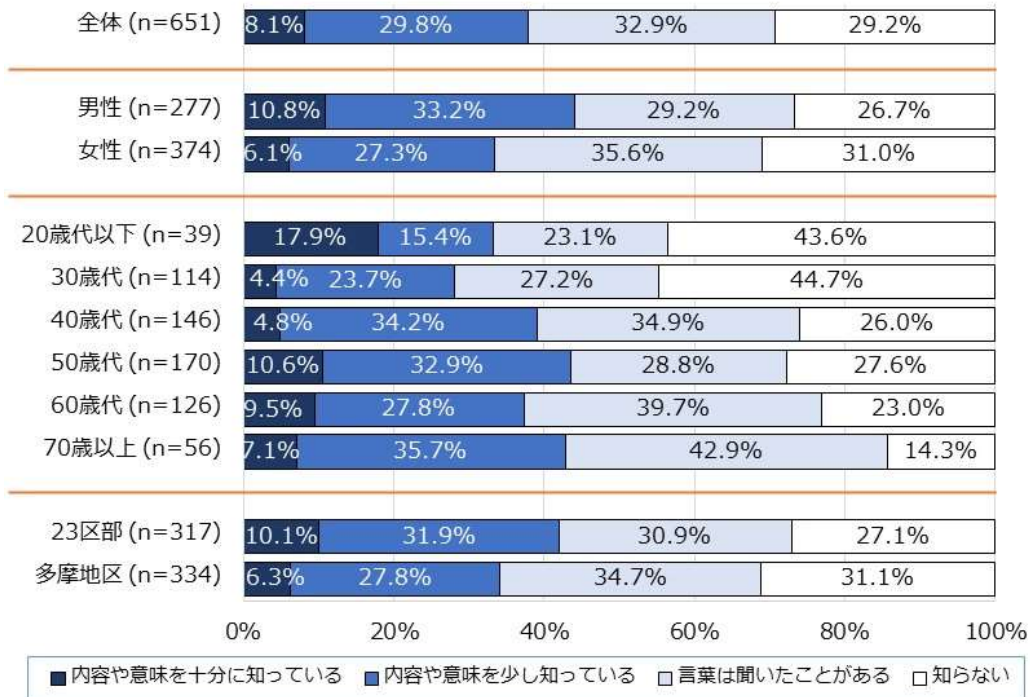
Q 1 - (3) 「雨水調整池の整備」 の内容や意味の認知度



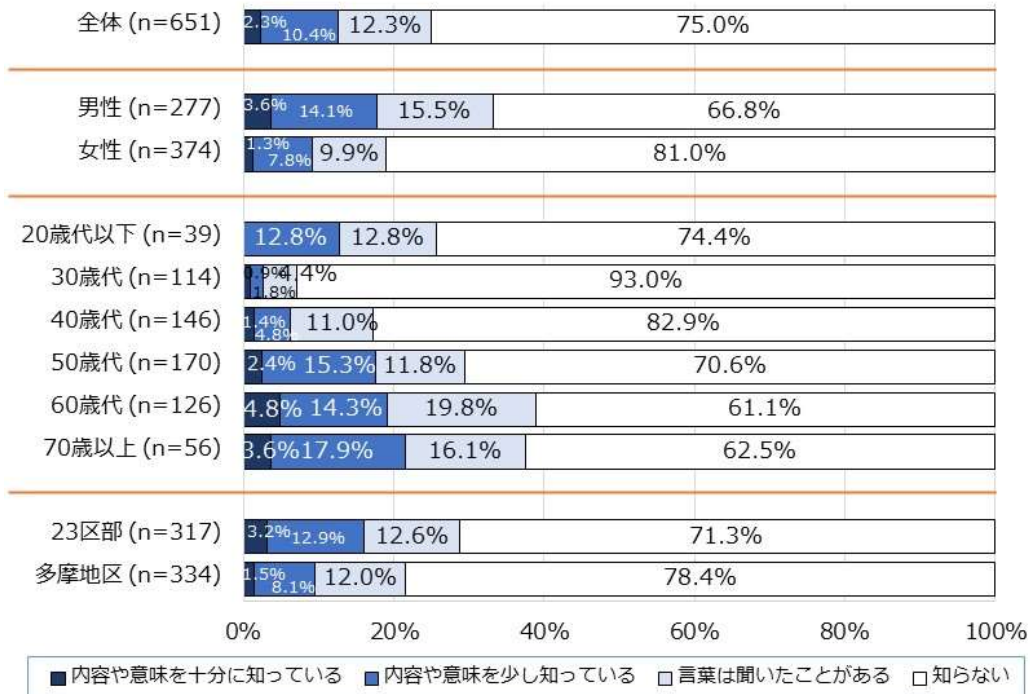
Q 1 - (4) 「暫定貯留管の整備」 の内容や意味の認知度



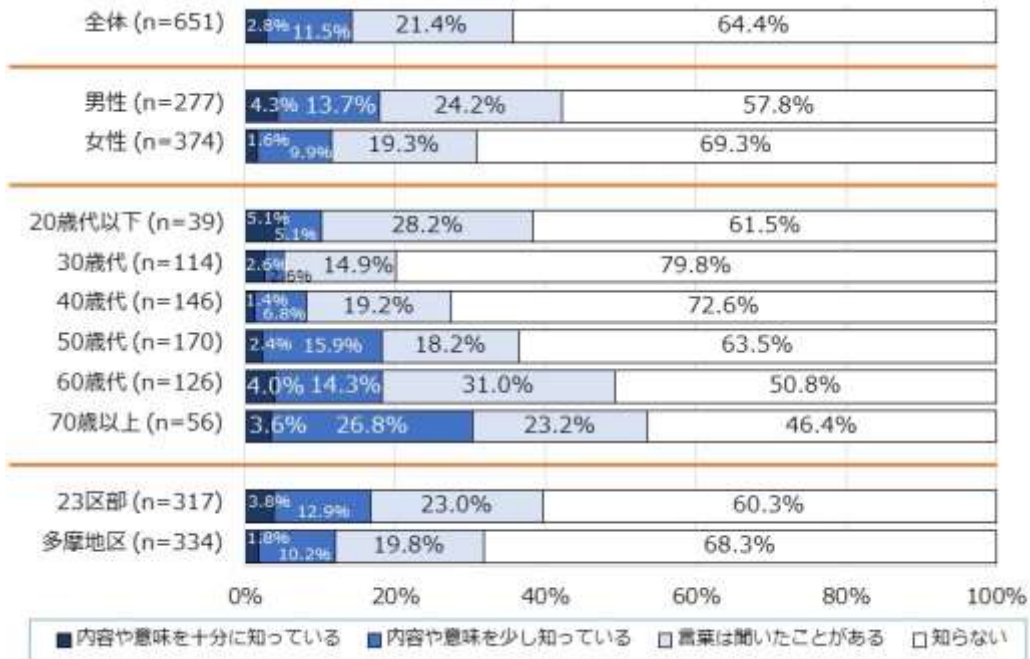
Q1 - (5) 「大規模地下街対策」の内容や意味の認知度



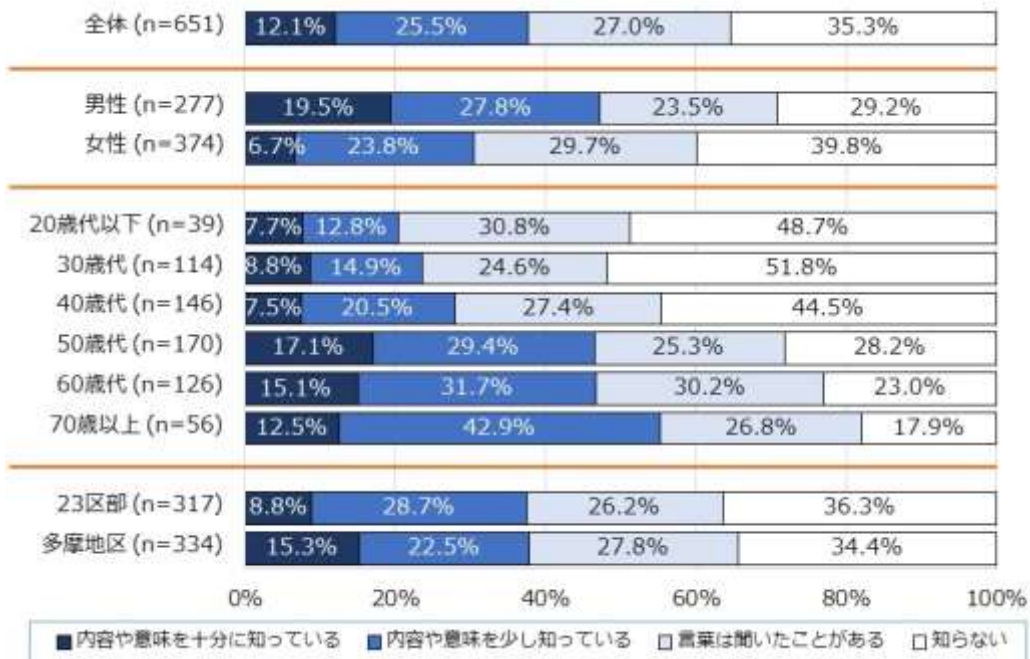
Q1 - (6) 「枝線の増径」の内容や意味の認知度



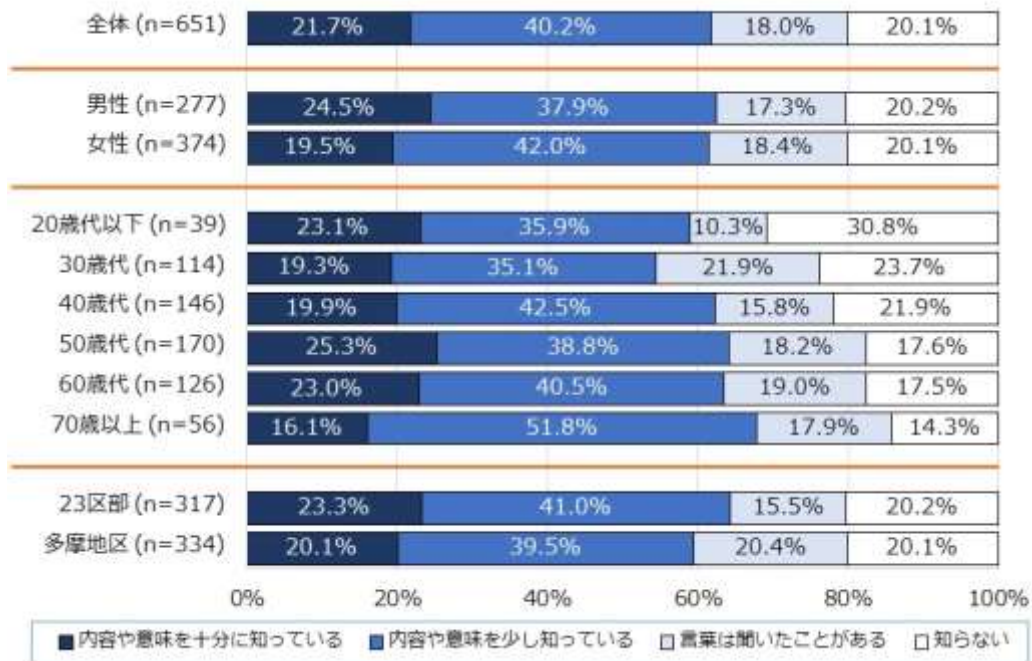
Q1 - (7) 「増補管やバイパス管の整備」の内容や意味の認知度



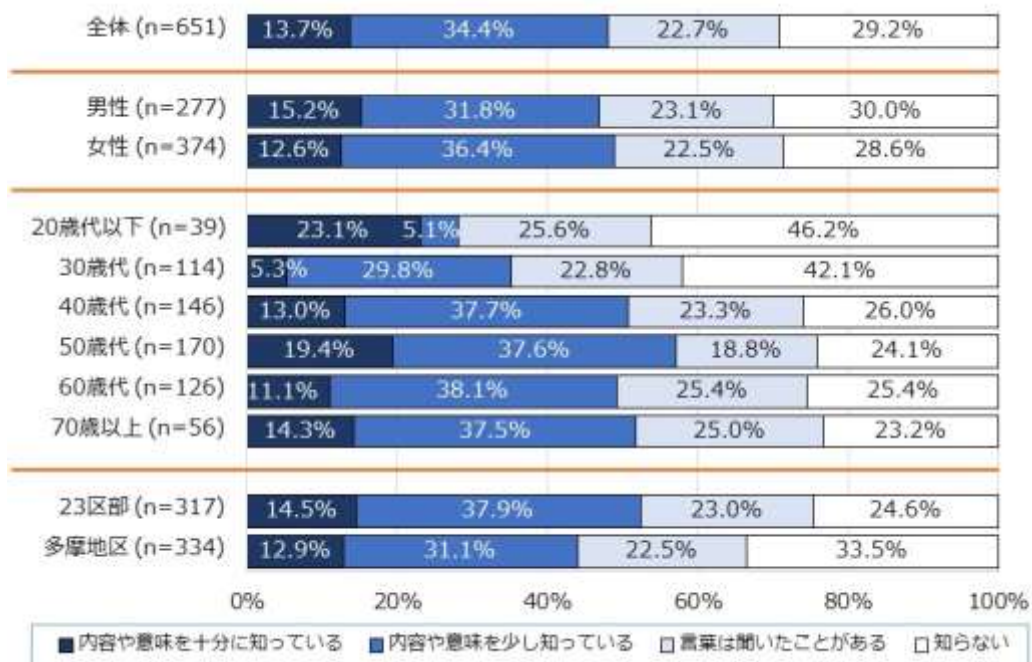
Q1 - (8) 「雨水浸透ますの設置」の内容や意味の認知度



Q1 - (9) 「浸水予想区域図の公表」の内容や意味の認知度



Q1 - (10) 「半地下建物・地下室における注意喚起」の内容や意味の認知度



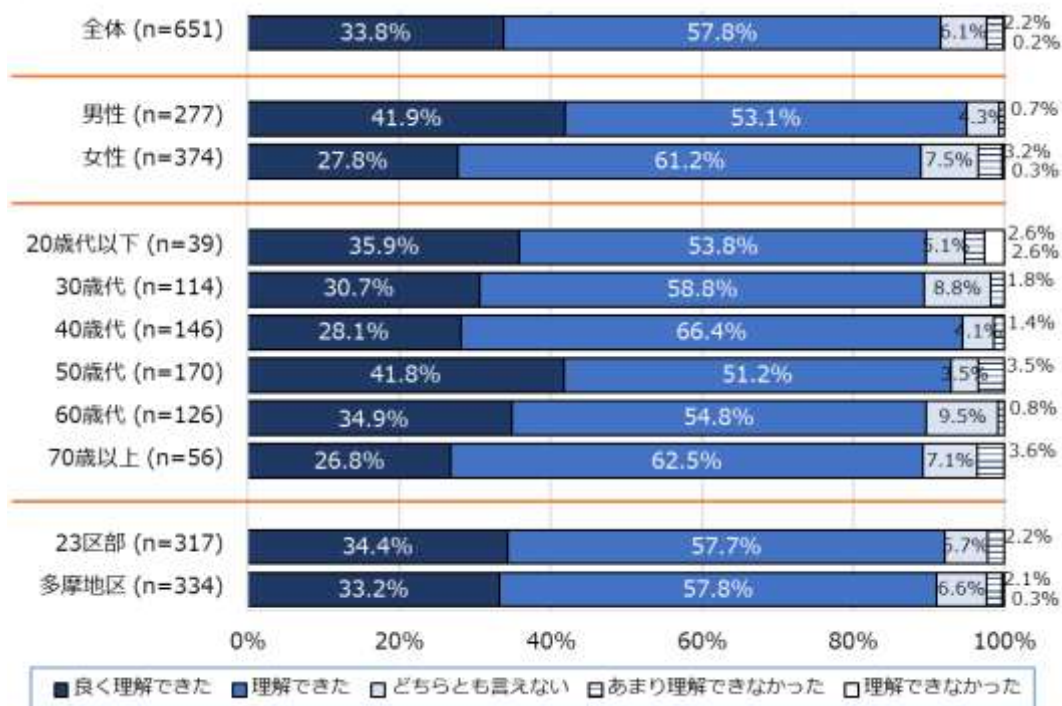
(2) 浸水対策の取組への理解

- ◆ 浸水対策のイメージと具体策を提示したのち、各取組への理解を尋ねたところ、いずれの取組も 8 割から 9 割が『理解できた（よく理解できた、理解できた）』と回答した。
- ◆ 男女別では全体的に男性において『理解できた』割合が高い傾向があった。
- ◆ 年代別では全体的に 40 歳代が「(1)「浸水対策幹線の整備」(94.5%)」、「(3)雨水調整池の整備(93.8%)」、「(5)大規模地下街対策(91.8%)」等多くの取組において『理解できた』割合が 9 割を超えた。

Q2 浸水対策のイメージと具体策をご覧いただきました。
以下に示す各取組は理解できましたか。(単一回答)

Q2-(1)「浸水対策幹線の整備」への理解

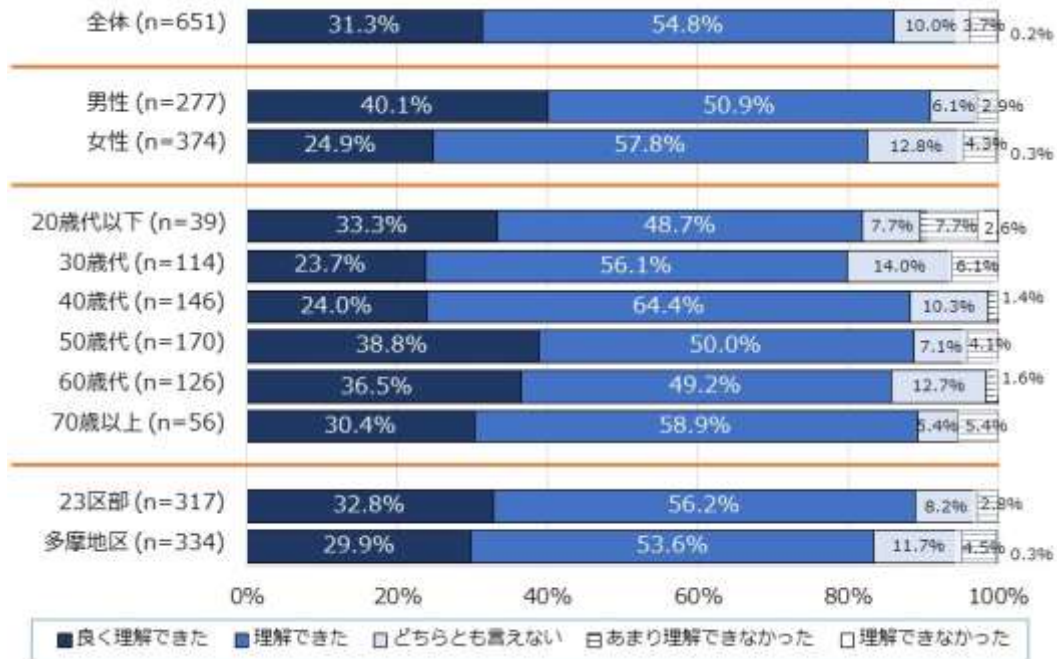
新たな幹線を整備して、雨水排除能力を高めます。



Q 2 - (2) 「ポンプ所の能力増強」への理解

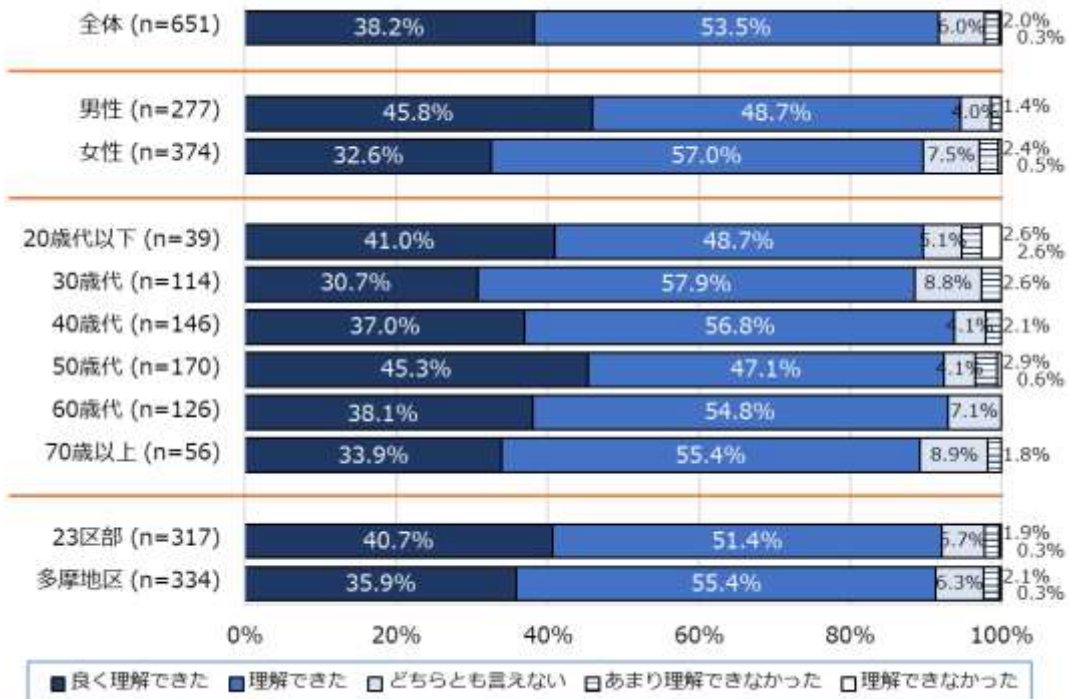
急激な豪雨を即座に排水できるよう無注水形先行待機ポンプ※を導入します。

※雨水の流入前からあらかじめ運転（先行待機）でき、冷却水の注水が不要（無注水）で断水時にも運転可能なポンプ



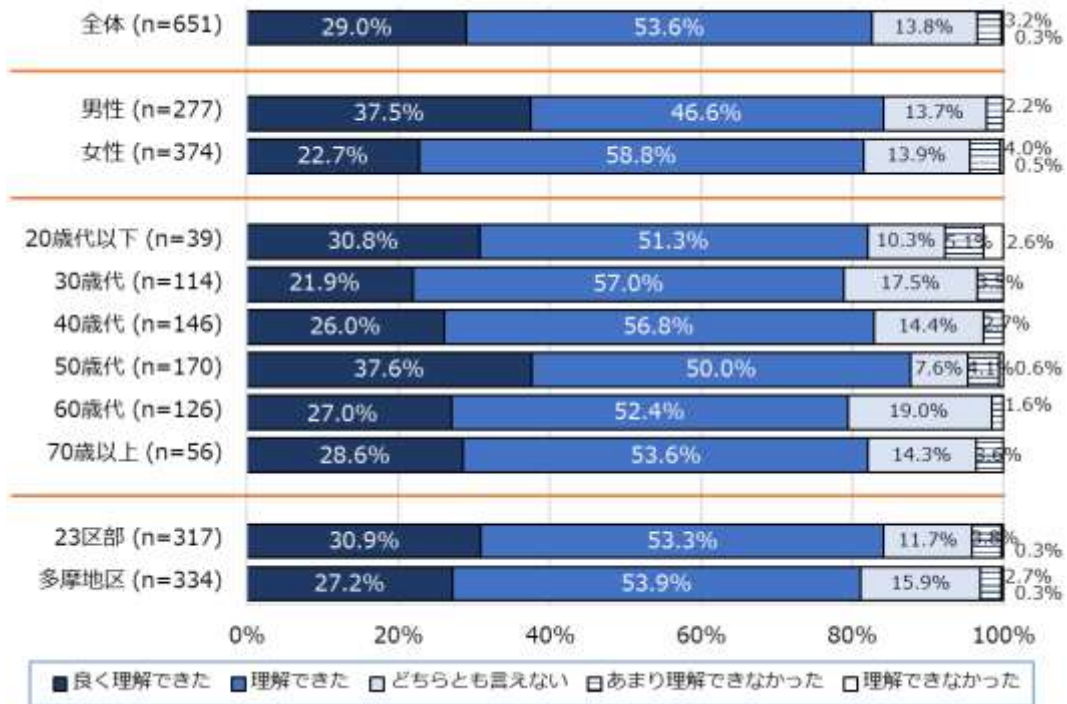
Q 2 - (3) 「雨水調整池の整備」への理解

下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。



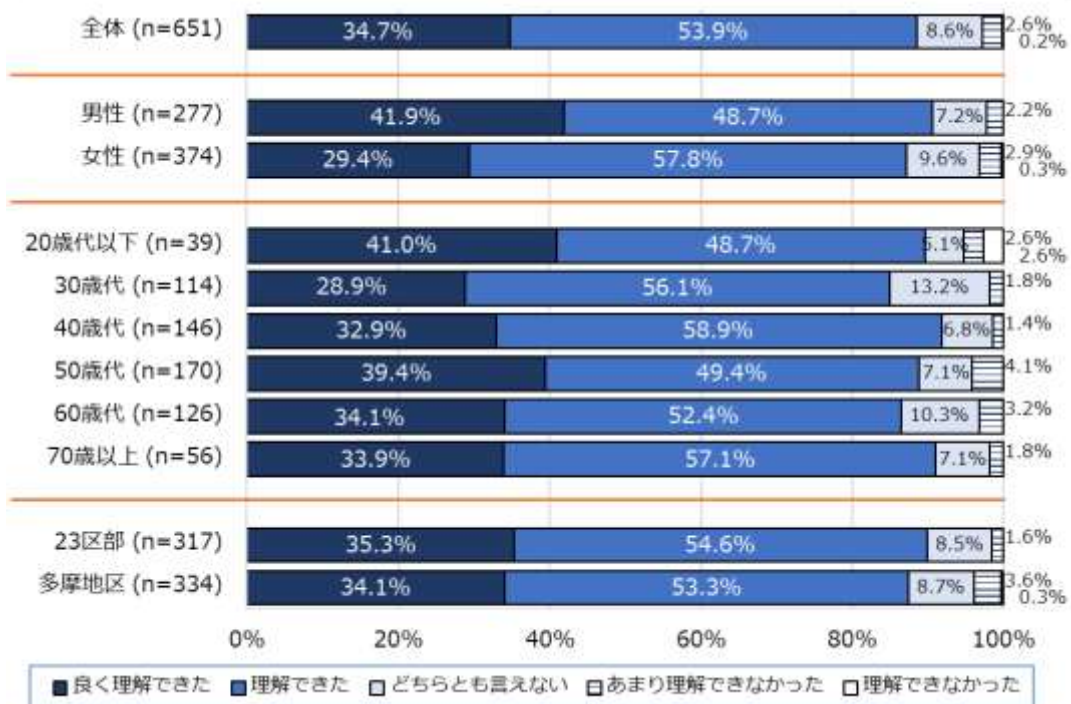
Q 2 - (4) 「 暫定貯留管の整備 」 への理解

一部完成した下水道管に雨水を暫定的に貯留して、整備効果を発揮させます。



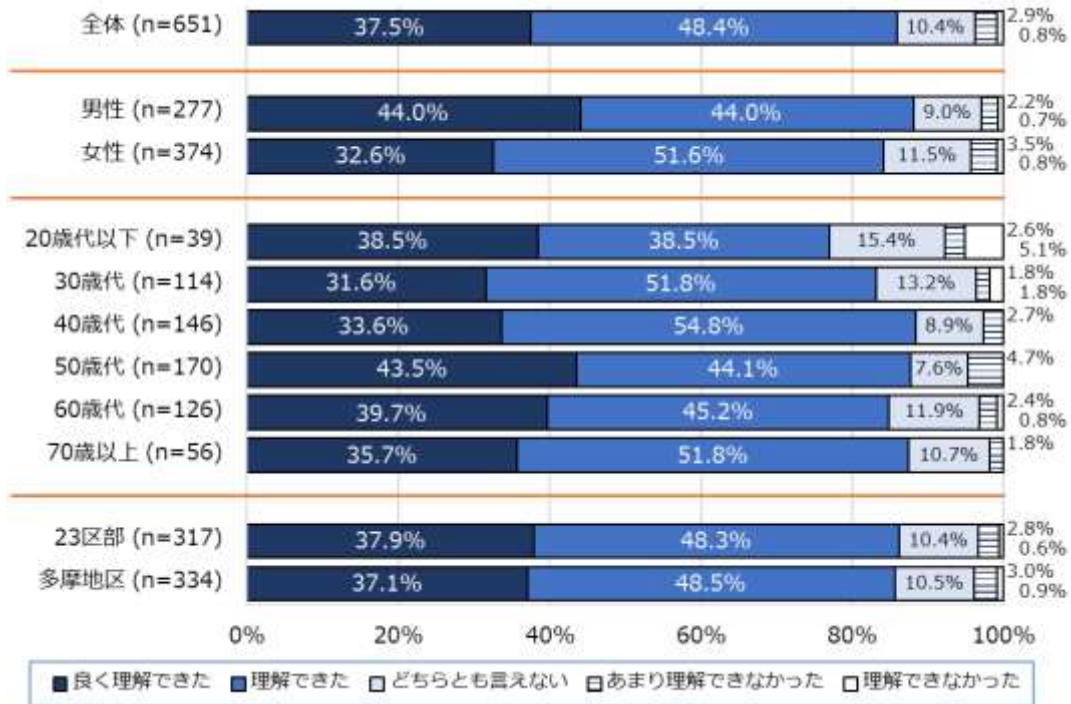
Q 2 - (5) 「 大規模地下街対策 」 への理解

地下街への雨水浸入を防止するための施設を整備します。



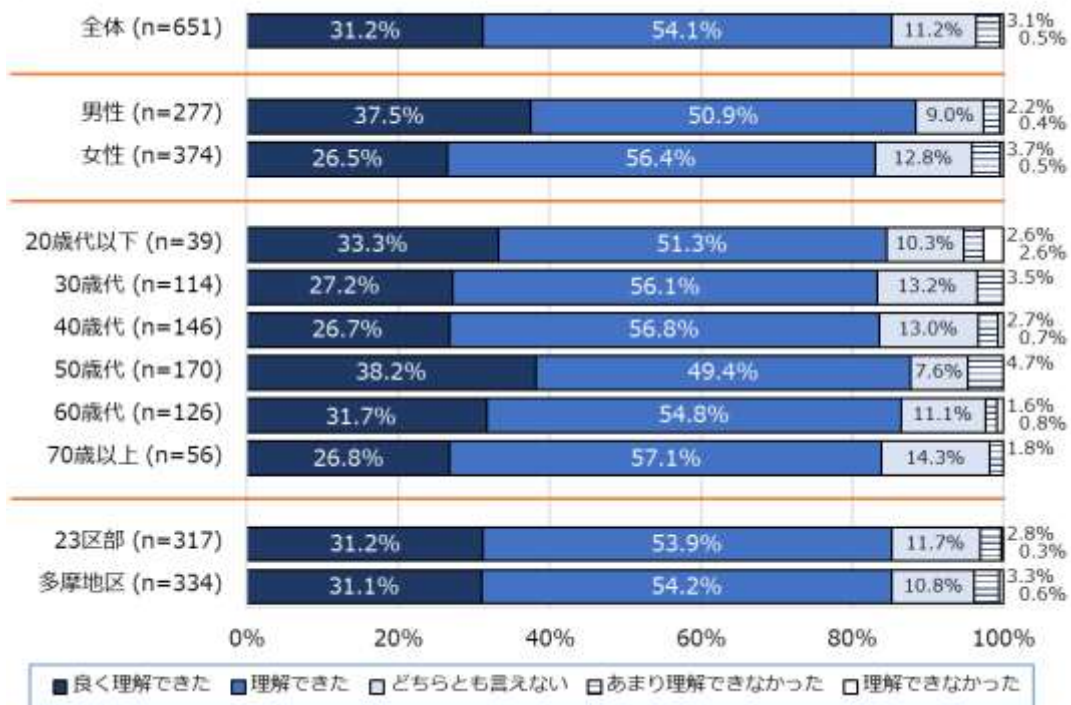
Q2-(6)「枝線の増径」への理解

古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管を大きくして流下能力を高めます。



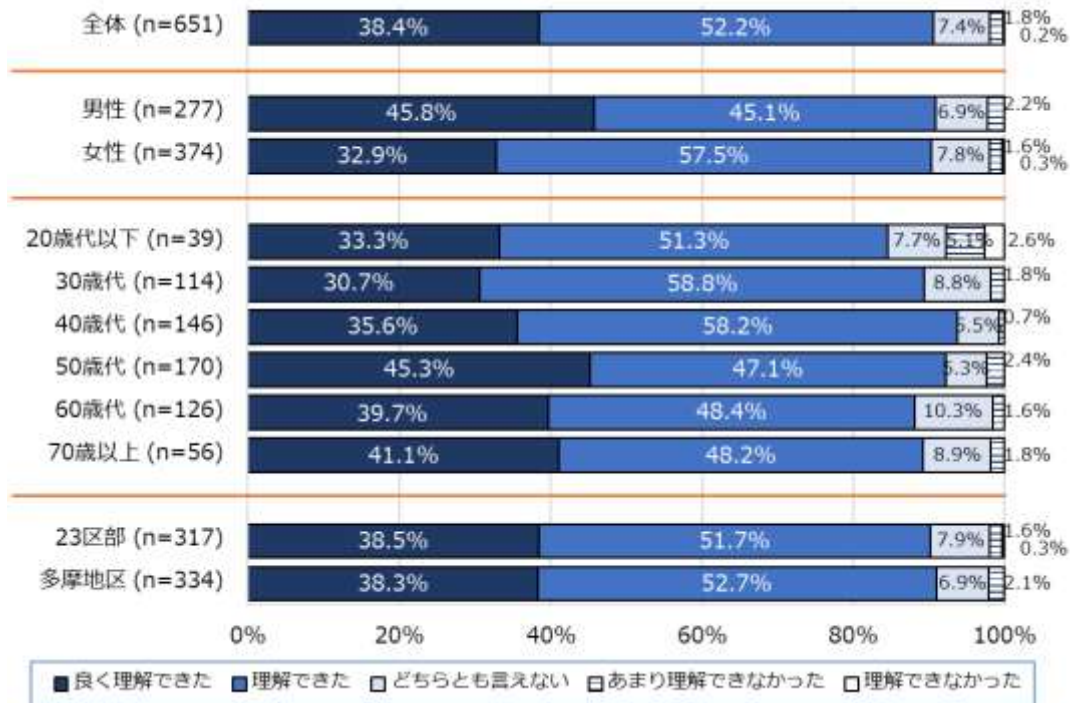
Q2-(7)「増補管やバイパス管の整備」への理解

下水道管を追加(増補管)、水の流れを変える等(バイパス管)、浸水被害が起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。



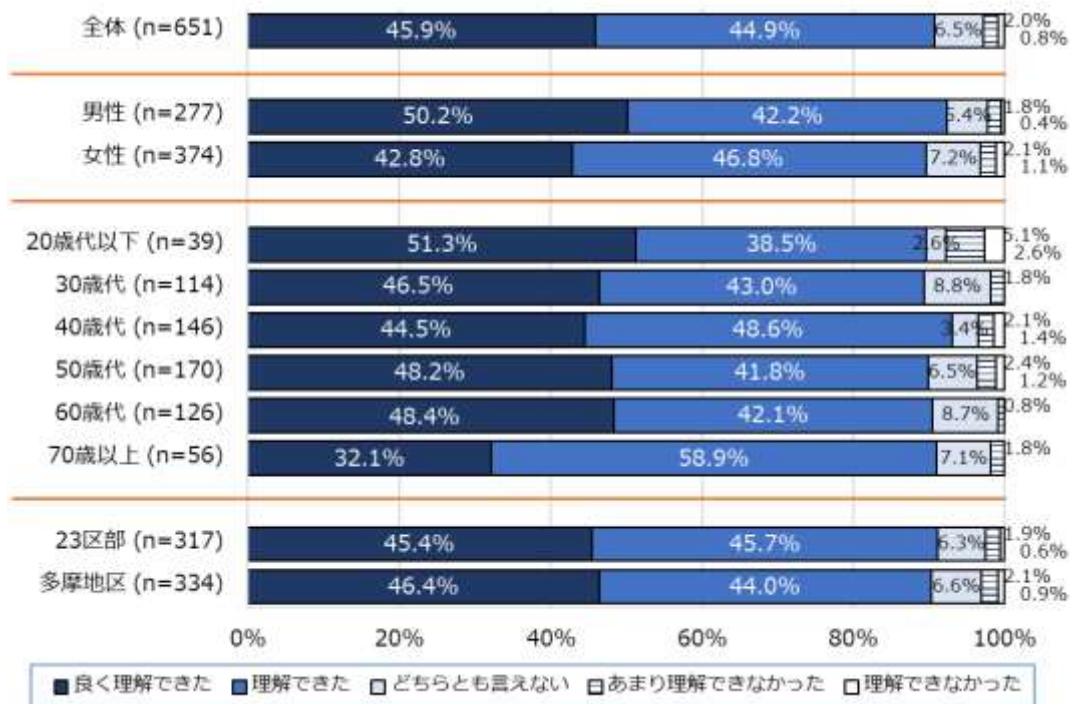
Q 2 - (8) 「雨水浸透ますの設置」 への理解

学校、公園、庁舎などの公共施設や戸建て住宅や集合住宅・事業所等の宅地において、降った雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。
 なお、宅地内への浸透ます等の設置には、助成制度を設けている特別区もあります。



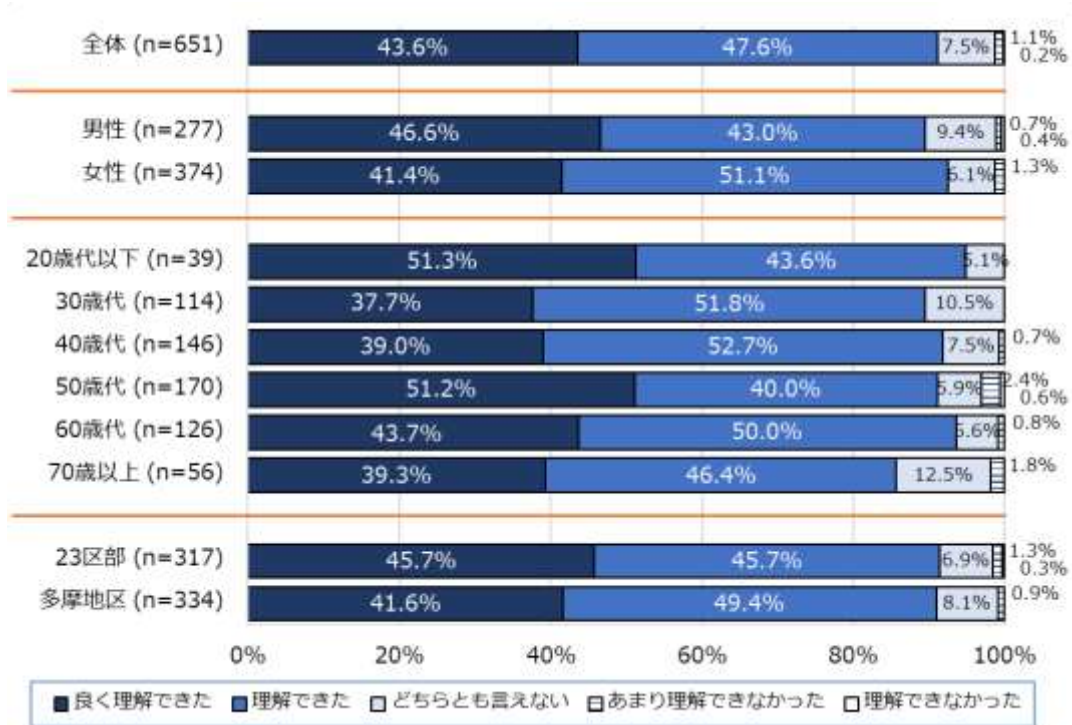
Q 2 - (9) 「浸水予想区域図の公表」 への理解

河川周辺の浸水の被害予想区域についてホームページ等で周知しています。
<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/living/a3/inundation/>



Q 2 - (1 0) 「半地下建物・地下室における注意喚起」への理解

豪雨時に下水道管から室内への逆流を防止するため、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の準備といったご家庭における浸水予防策をお願いしています。



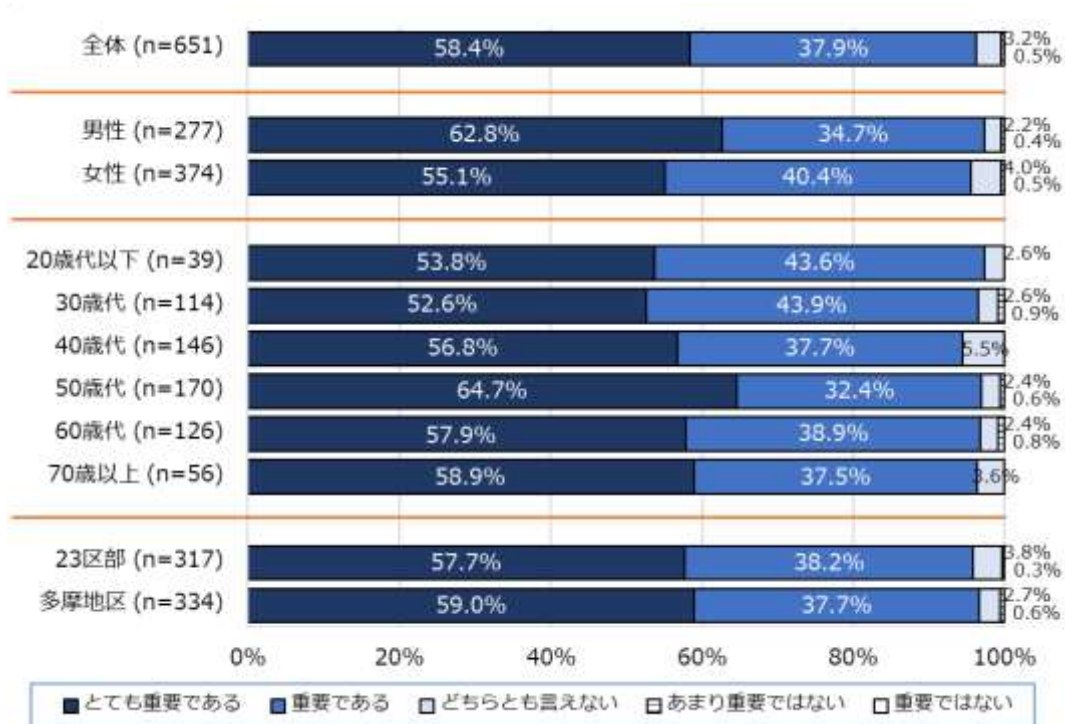
(3) 浸水対策の取組の重要度

- ◆ 各取組をどのくらい重要と考えるかでは、「とても重要である」と「重要である」を合わせた『重要である』は「(1) 浸水対策幹線の整備」と「(3) 雨水調整池の整備」が最も高く、次いで「(9) 浸水予想区域図の公表」だった。
- ◆ 男女別では、女性のほうが『重要である』との評価がやや高い傾向だった。
- ◆ 年代別では、いずれの年代もほとんどの施策で9割を超える高い評価だった。

Q3 浸水対策として以下の取組を推進することで、都市機能を確保し、安全・安心な暮らしを実現します。各取組について、あなたはどのくらい重要だと思いますか。(単一回答)

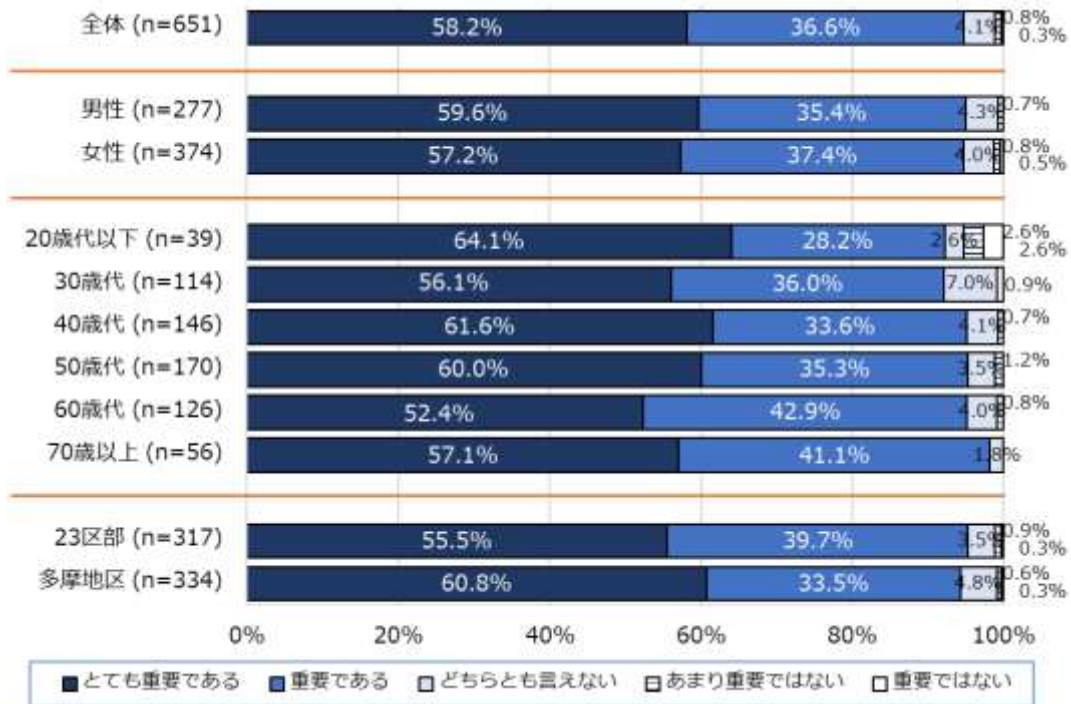
Q3-(1)「浸水対策幹線の整備」の重要度

新たな幹線を整備して、雨水排除能力を高めます。



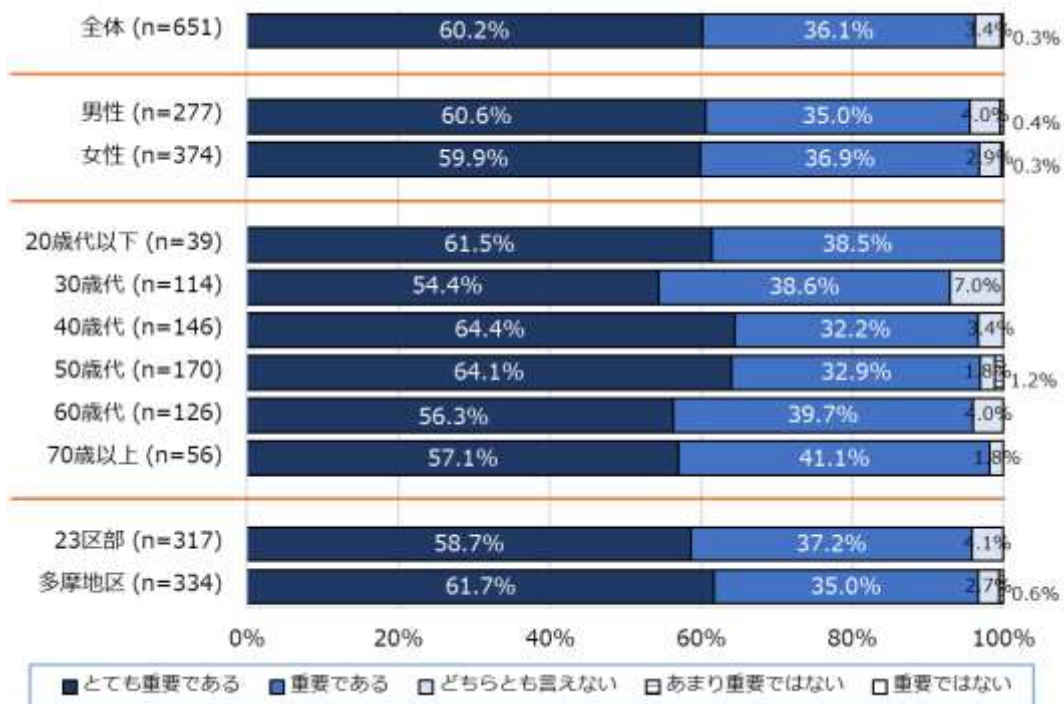
Q3 - (2) 「ポンプ所の能力増強」の重要度

急激な豪雨を即座に排水できるよう無注水形先行待機ポンプを導入します。



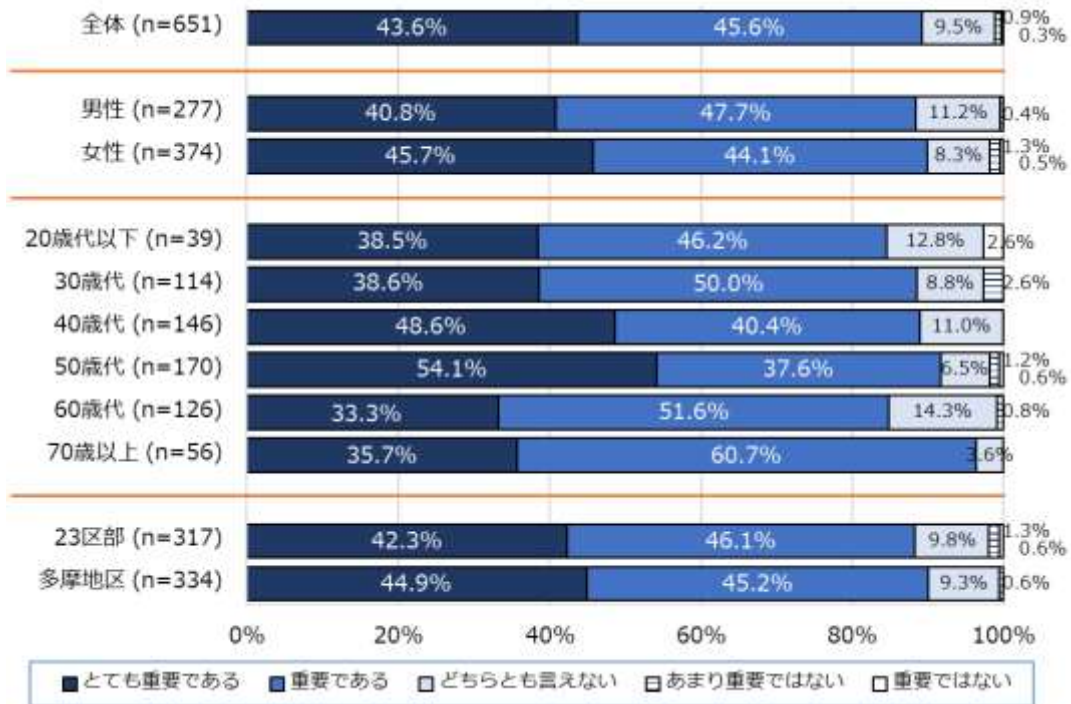
Q3 - (3) 「雨水調整池の整備」の重要度

下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。



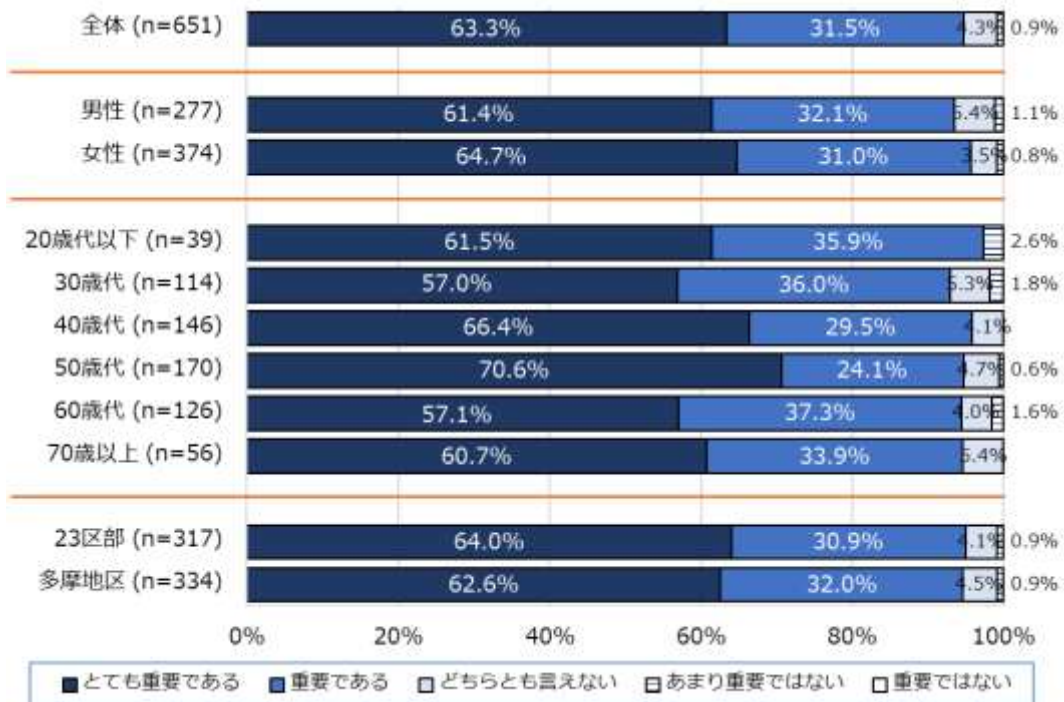
Q3-(4)「暫定貯留管の整備」の重要度

一部完成した下水道管に雨水を暫定的に貯留して、整備効果を発揮させます。



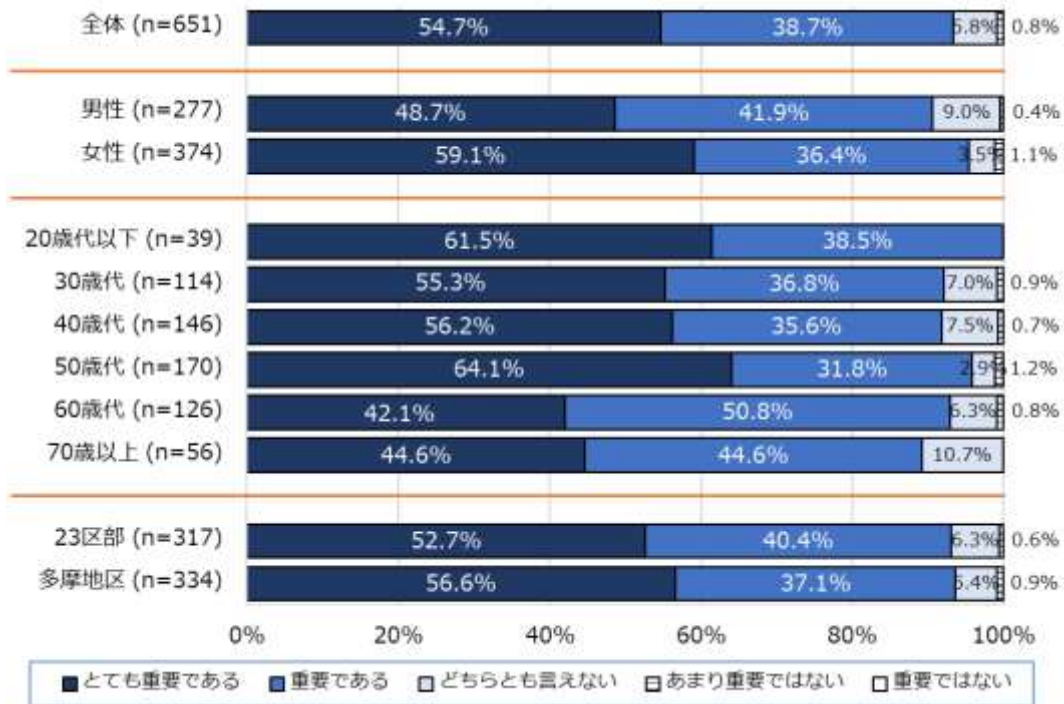
Q3-(5)「大規模地下街対策」の重要度

地下街への雨水浸入を防止するための施設を整備します。



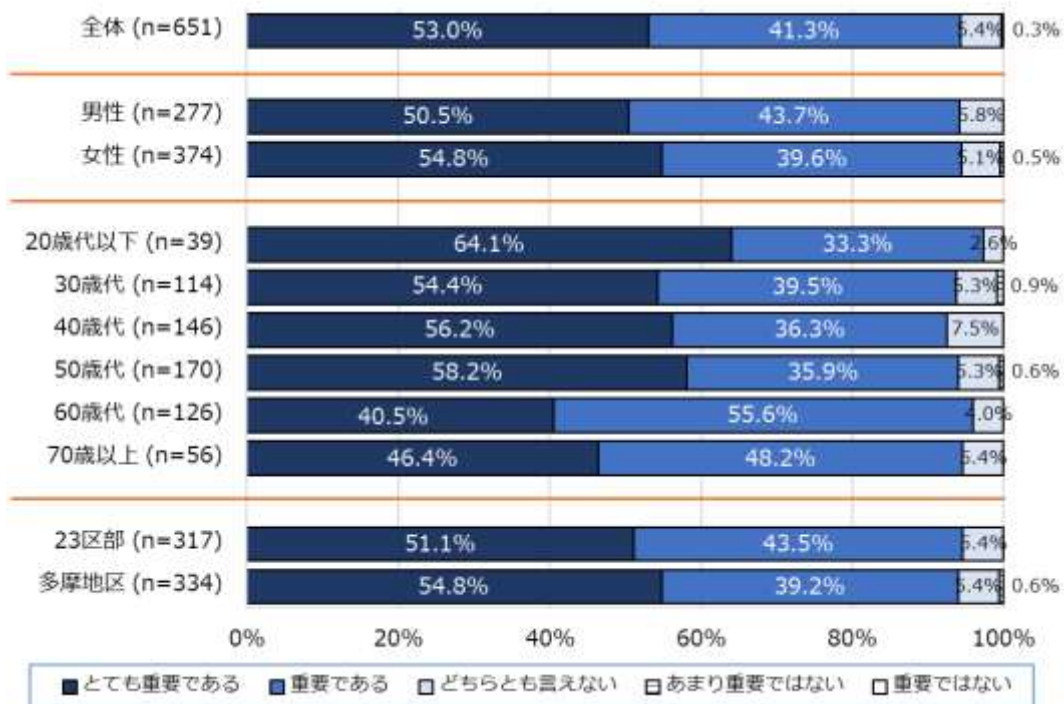
Q3-（6）「枝線の増径」の重要度

古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管を大きくして流下能力を高めます。



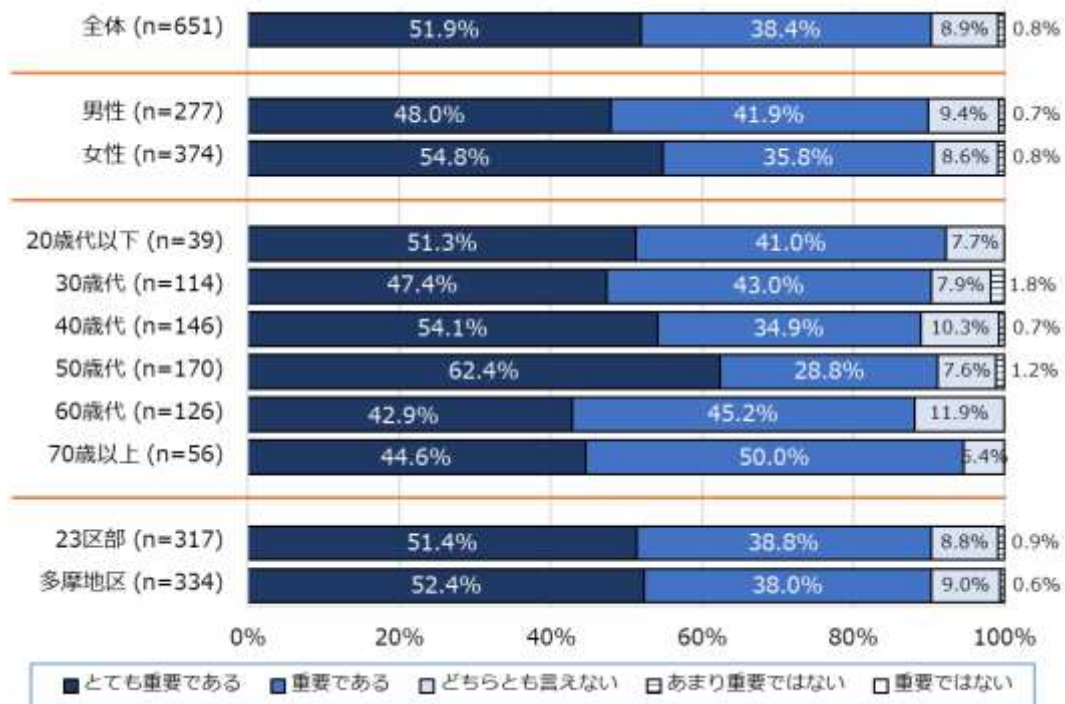
Q3-（7）「増補管やバイパス管の整備」の重要度

下水道管を追加（増補管）、水の流れを変える等（バイパス管）、浸水被害が起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。



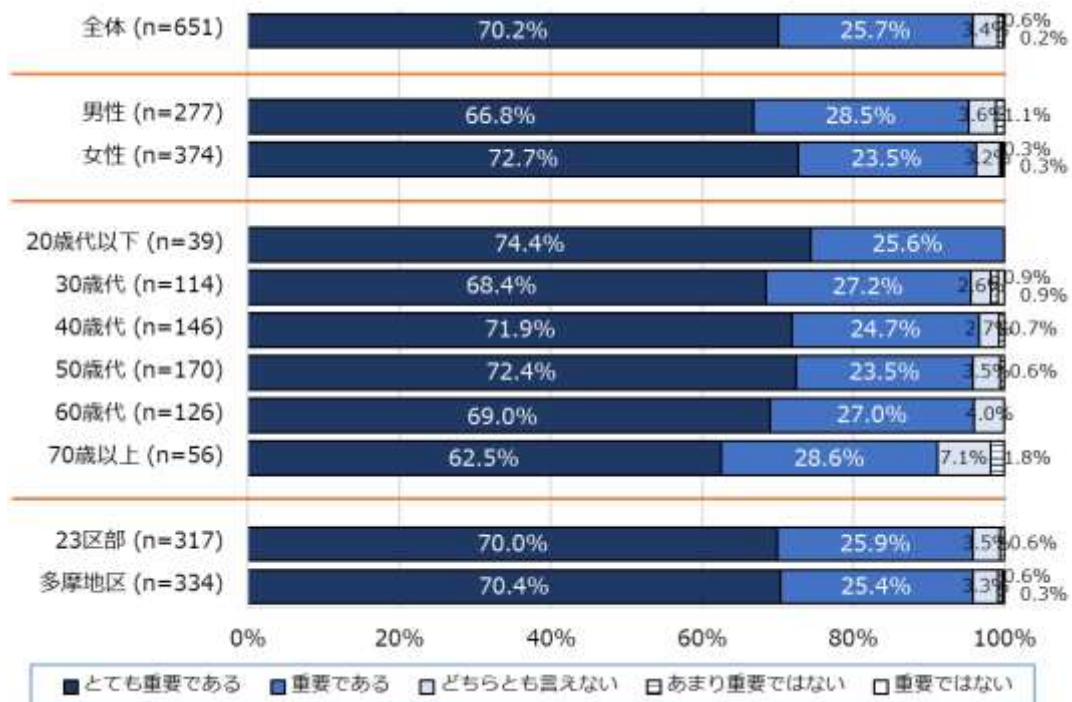
Q3 - (8) 「雨水浸透ますの設置」の重要度

学校、公園、庁舎などの公共施設や戸建て住宅や集合住宅・事業所等の宅地において、降った雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。



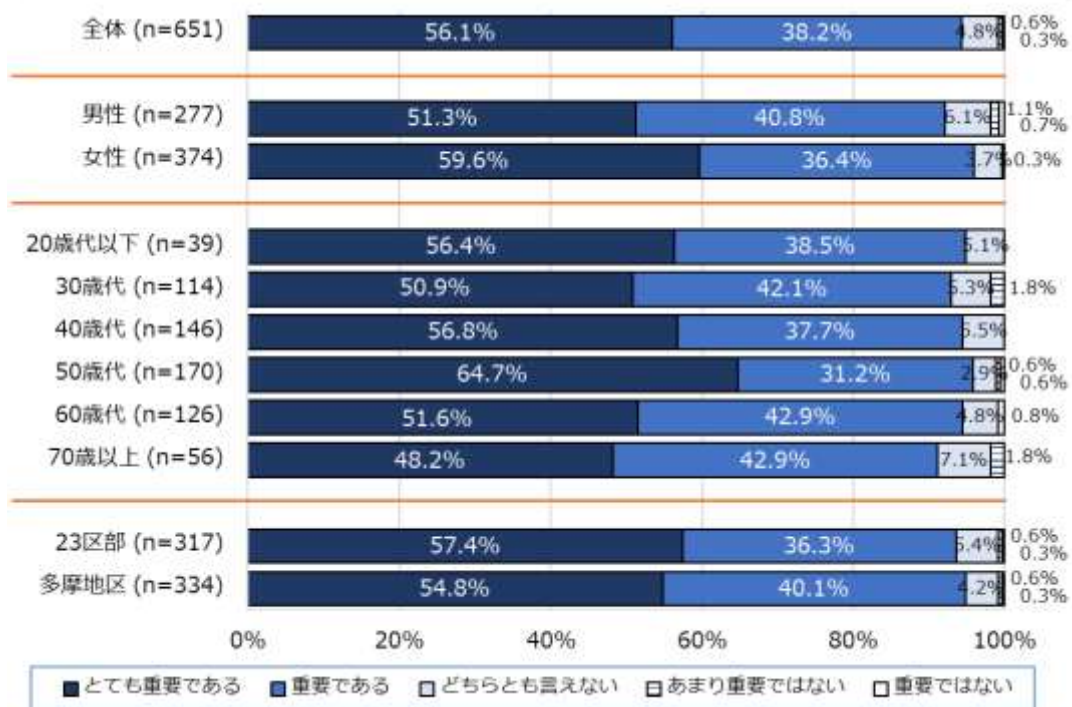
Q3 - (9) 「浸水予想区域図の公表」の重要度

河川周辺の浸水の被害予想区域についてホームページ等で周知しています。



Q3-(10)「半地下建物・地下室における注意喚起」の重要度

豪雨時に下水道管から室内への逆流を防止するため、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の準備といったご家庭における浸水予防策をお願いしています。



2 家庭での浸水対策の取組

(1) 家庭での浸水対策実施の有無

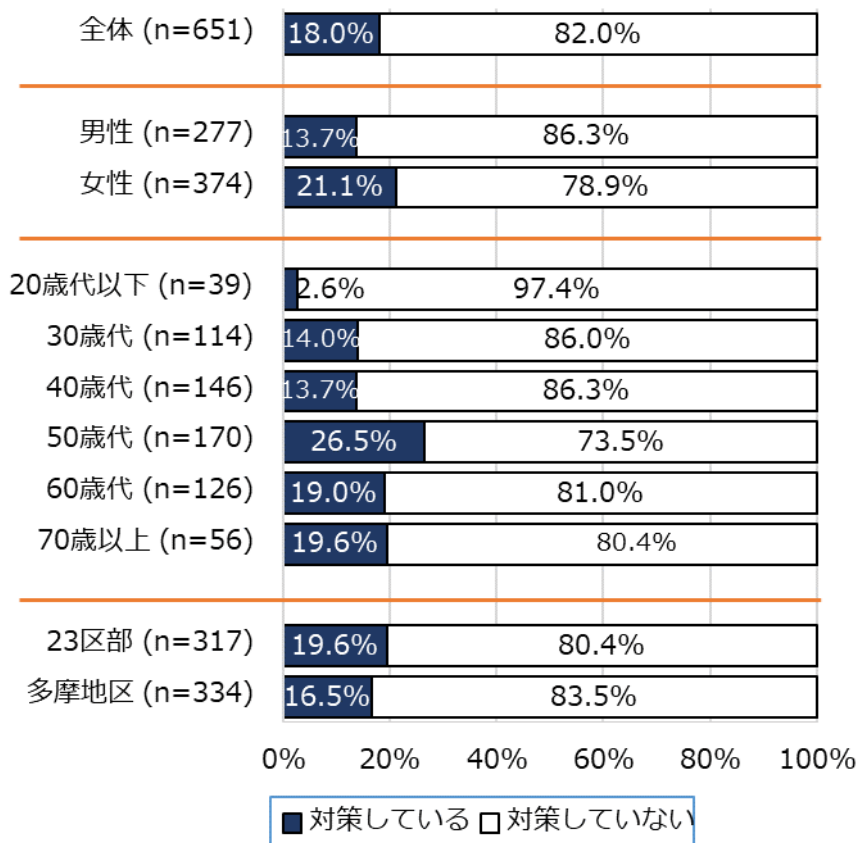
- ◆ 家庭で浸水対策を実施しているのは、回答者の約2割だった。
- ◆ 男女別では『対策している』は女性が男性より7.4ポイント高かった。
- ◆ 年代別で『対策している』との回答は、50歳代がと最も高く、70歳以上、60歳代が続いた。
- ◆ 地区別では、大きな違いは見られなかった。

家庭での浸水への対策について

ここでは、皆さまのお宅での浸水対策について伺います。

下水道局では、毎年6月を「浸水対策強化月間」と定め、都民の皆さまに浸水への備えをお願いしています。

Q4 あなたのお宅では浸水対策をしていますか。(単一回答)

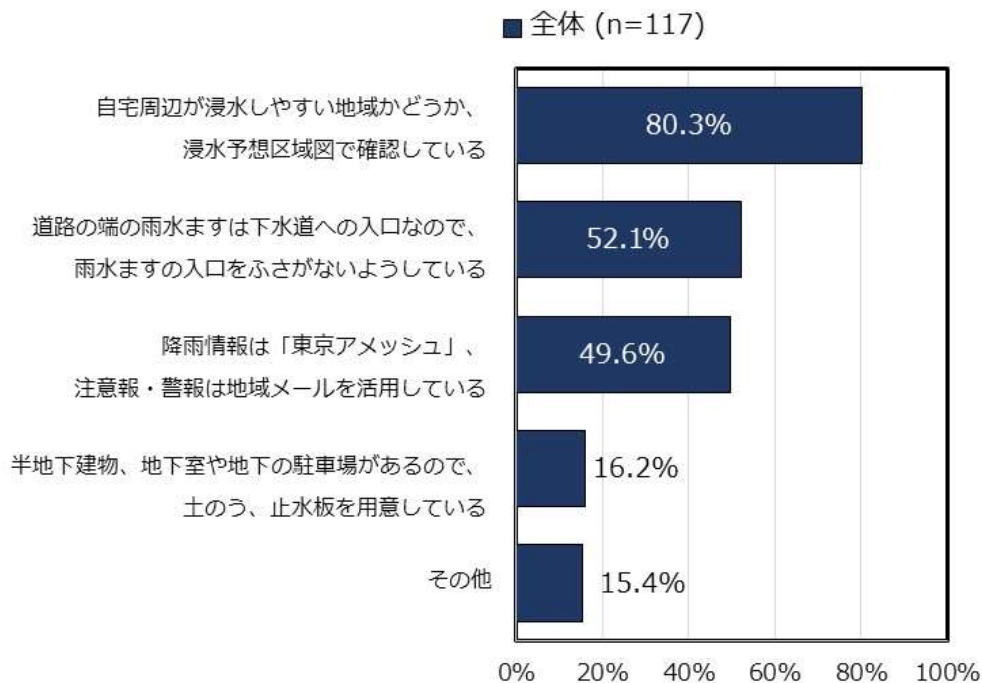


(2) 行っている浸水対策

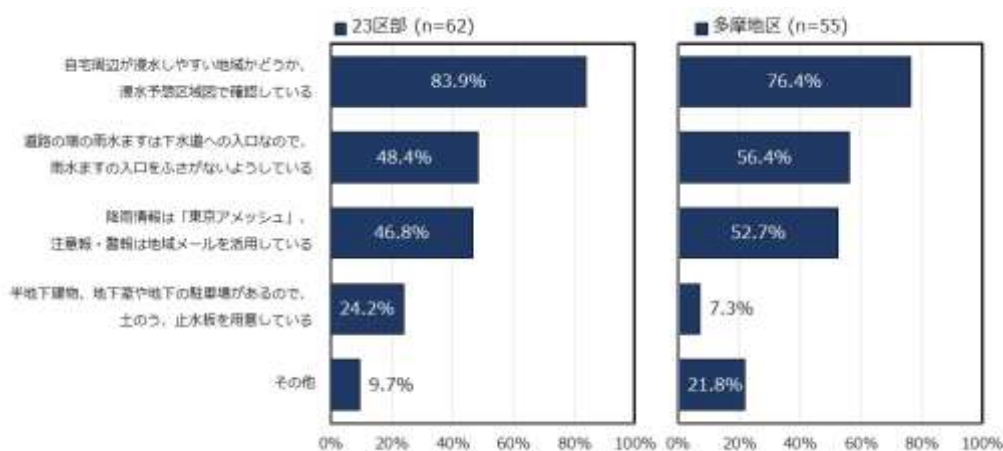
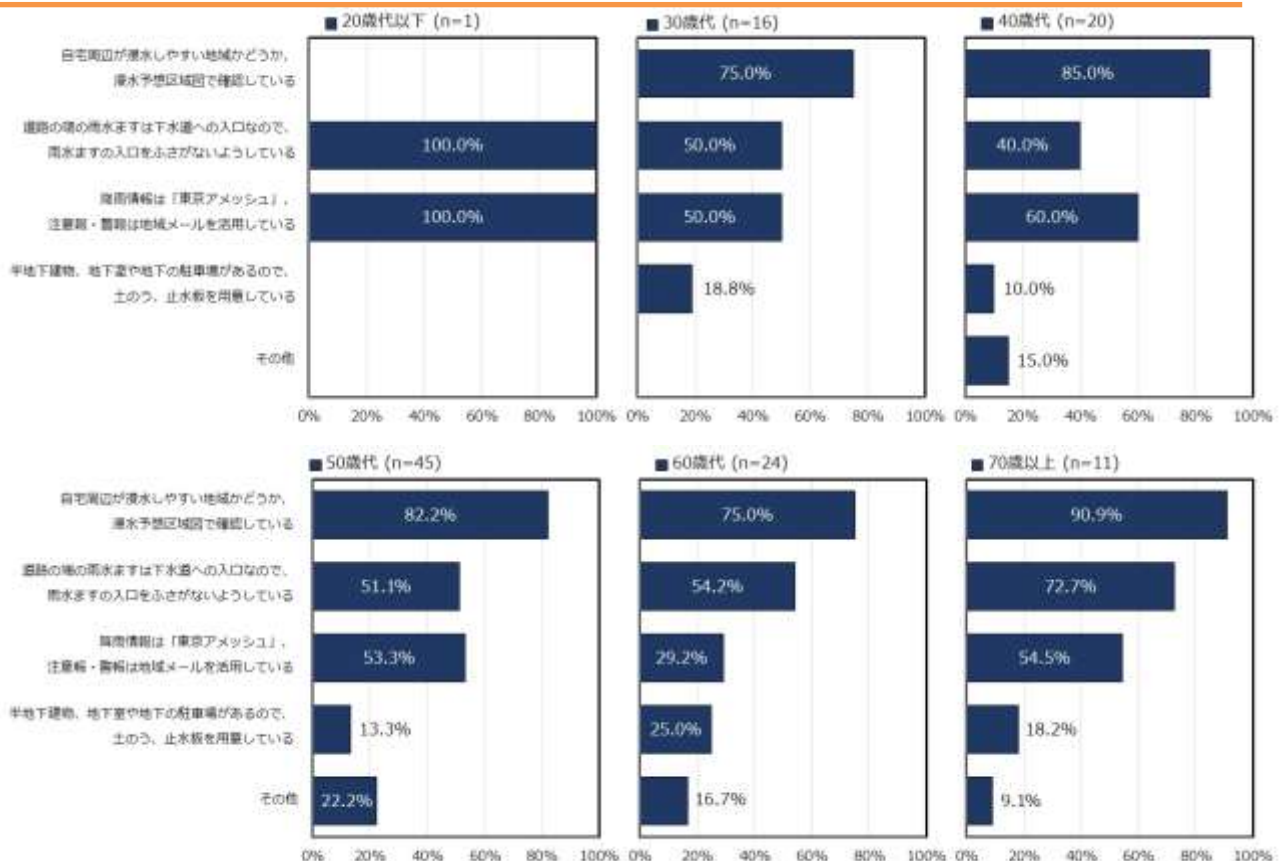
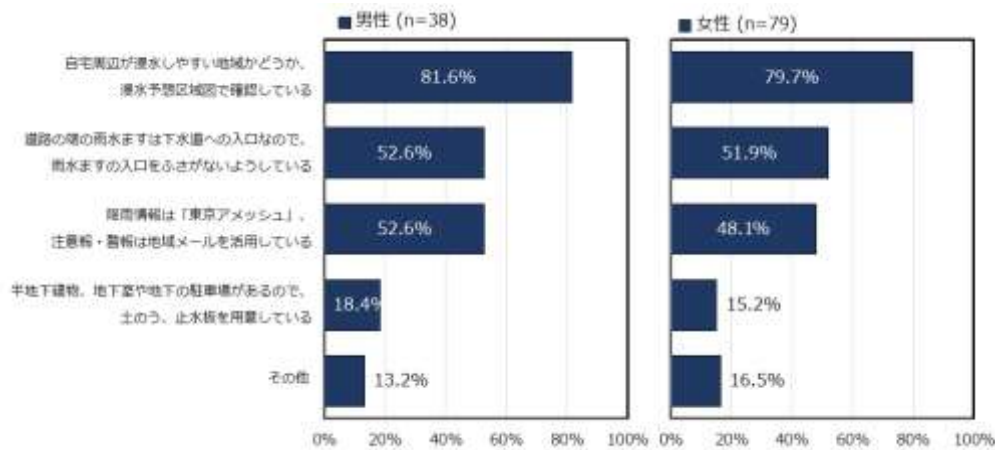
- ◆ 家庭での浸水対策を行っている回答者（117人）の対策は、「自宅周辺が浸水しやすい地域かどうか、浸水予想区域図で確認をしている」が80.3%と最も高かった。
- ◆ 男女別で回答の傾向に大きな違いはなかった。
- ◆ 年代別では、30歳代以上で「自宅周辺が浸水しやすい地域かどうか、浸水予想区域図で確認をしている」の回答割合が7割台半ばを超えている。
- ◆ 地区別では、「自宅周辺が浸水しやすい地域かどうか、浸水予想区域図で確認をしている」は23区部が多摩地区より高い傾向にあるが、「道路の端にある雨水ますは下水道への入り口なので、雨水ますの入り口をふさがないようにしている」・「降雨情報は「東京アメッシュ」、注意報・警報は地域メールを活用している」は多摩地区が23区部より高い傾向にあった。

Q4-1 Q4で「対策している」を選択された方に伺います。

具体的に行っている対策は何ですか。（複数回答）



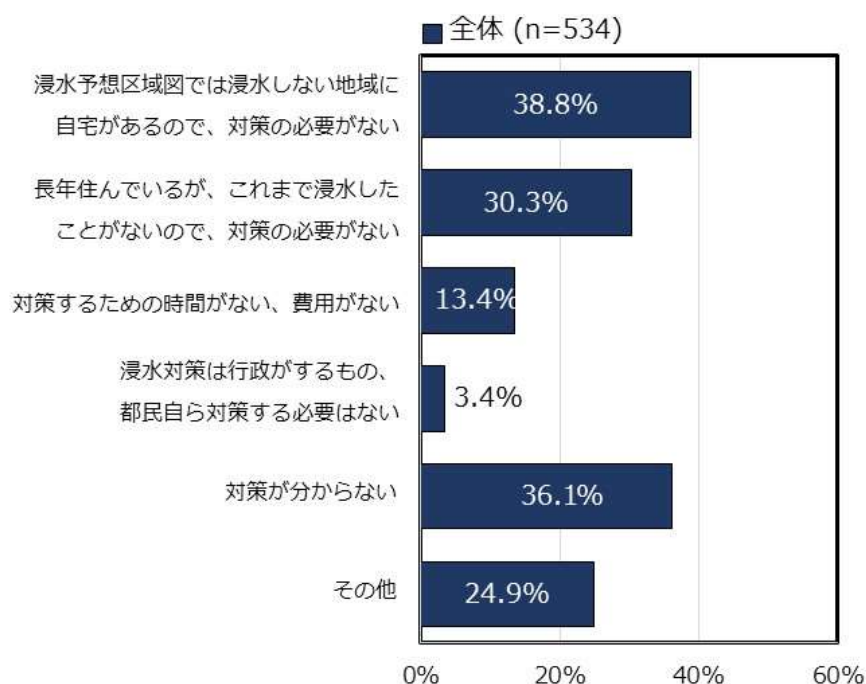
「その他」(18件)の自由記述の一部	
雨水浸透ますの設置、庭にしみ込ませる (6件)	・屋外駐車場の雨水ますが浸透ますです。(50歳代男性、多摩地域)
土のうや水のうを用意 (3件)	・水のうを用意している。(50歳代女性、23区部)
訓練等の事前準備 (3件)	・子供たちが小さいので、浸水してきた時水をさわらない、すぐに2階へ移動するなどの訓練もしています。(40歳代女性、多摩地域) ・防災会で災害時は地域で助け合いをする。(70歳以上男性、多摩地域)



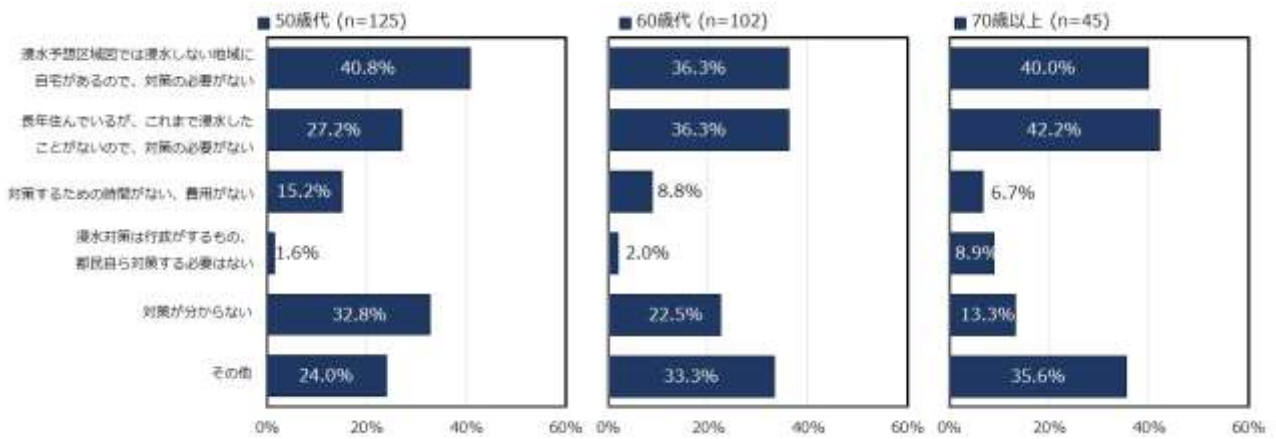
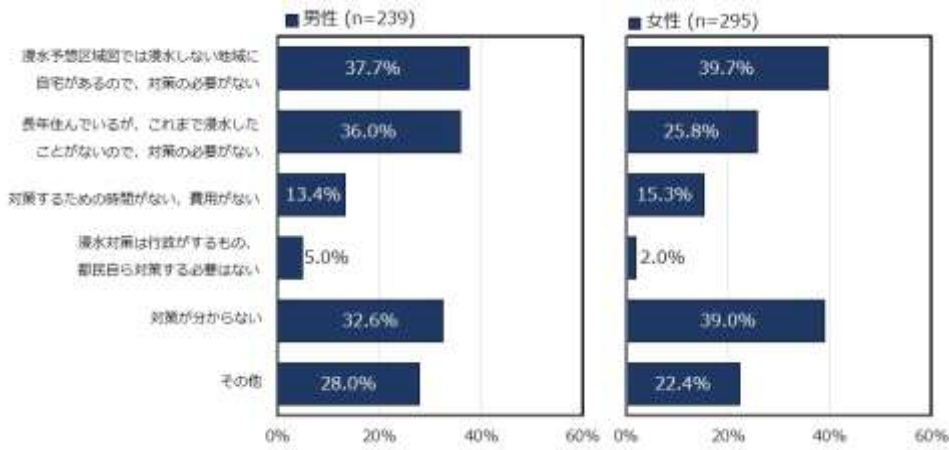
(3) 浸水対策を行わない理由

- ◆ 対策を行っていないとした回答者 (534 人) は「浸水予想区域図では浸水しない地域に自宅があるので、対策の必要がない」、「長年住んでいるが、これまで浸水したことがないので、対策の必要がない」がそれぞれ 38.8%、30.3%だった。
- ◆ 「対策が分からない」との回答は、男女別では女性が多く、年代別では若い年代になるほど多かった。
- ◆ 地区別では、「浸水予想区域図では浸水しない地域に自宅があるので、対策の必要がない」と回答した割合が、多摩地区の方が 23 区部より 17.9 ポイント高かった。

Q4-2 Q4で「対策していない」を選択された方に伺います。対策をしていない理由は何ですか。(複数回答)



「その他」(132件)の自由記述の一部	
マンション/高層階に住んでいるので浸水しないため (57件)	・団地の高層階に住んでいるため。(20歳代女性、多摩地区)
集合住宅で管理会社に任せているため (29件)	・マンションとしてはしているが、個人では浸水に対しての備えは特段準備していない。(30歳代女性、23区部)
高台に住んでいるため (19件)	・高台にあり、浸水する可能性がないため。(60歳代男性、多摩地区)
賃貸のため対策出来ない (7件)	・賃貸のため自己判断で変えられない。(40歳代女性、多摩地区)
その他 (12件)	・今のところ、浸水もしたことがないが、土のう、止水板とか用意をしようと思っている。(60歳代男性、23区部)

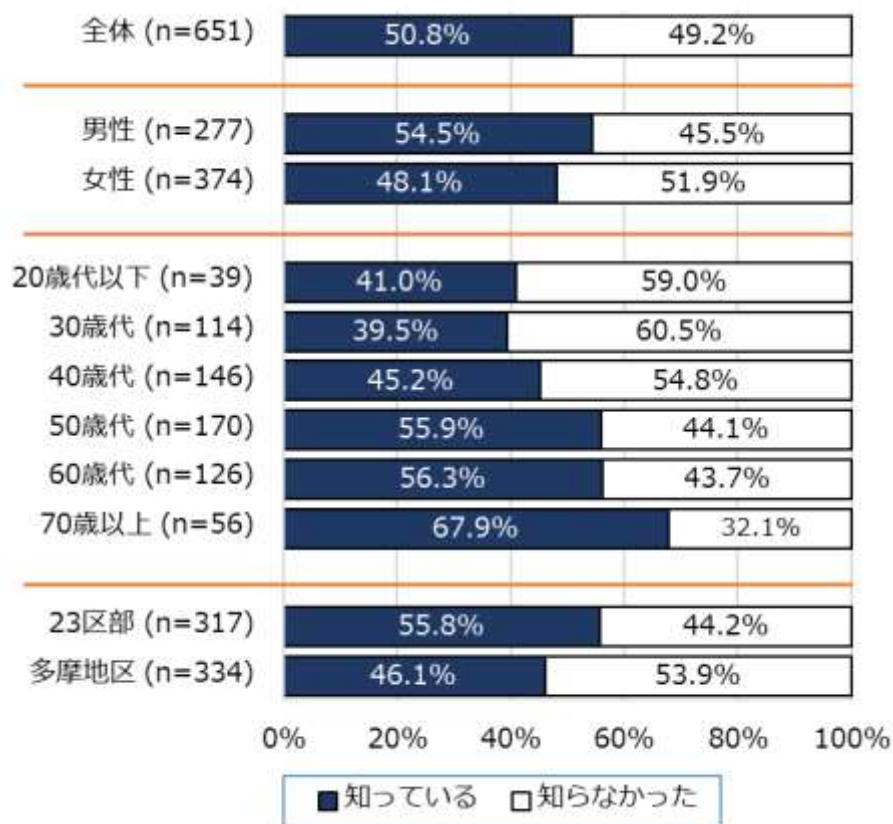


(4) 下水道局が紹介する浸水対策の認知度

- ◆ 下水道局が紹介している浸水対策を「知っていた」のは50.8%、「知らなかった」は49.2%だった。
- ◆ 男女別では、「知っている」と回答した割合が、男性の方が女性より6.4ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、「知っている」と回答した割合は、年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、70歳以上で7割近くとなった。
- ◆ 地区別では、「知っている」と回答した割合は23区部の方が9.7ポイント高かった。

Q5 下水道局では、都民の皆さまでも簡単にできる浸水対策を紹介していますが、ご存知ですか。(単一回答)

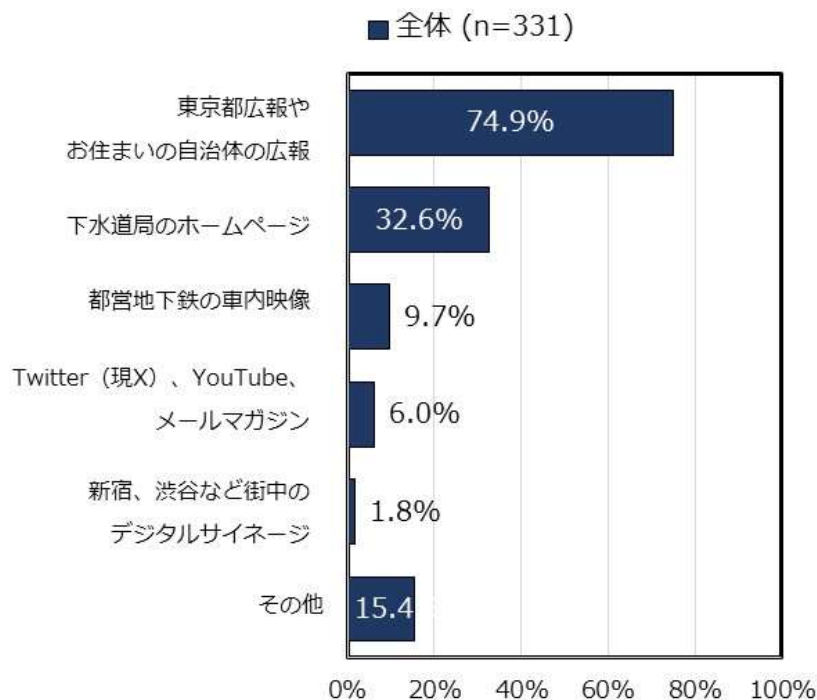
【浸水対策の例】 雨水ますをふさがない、 半地下建物などには土のうなどを準備する



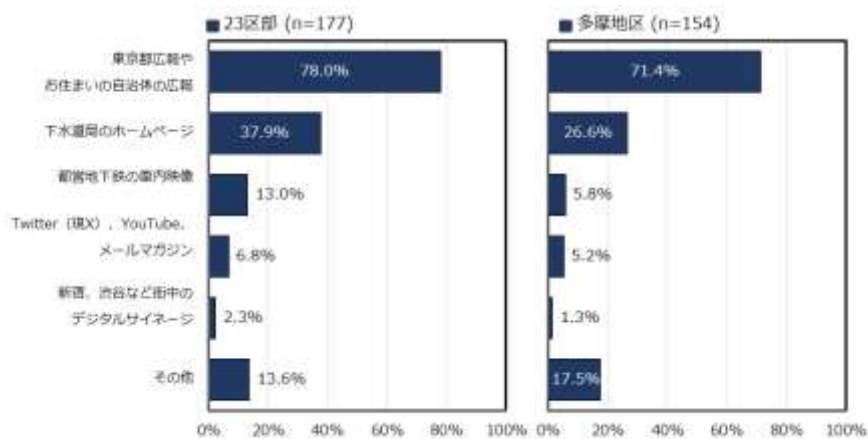
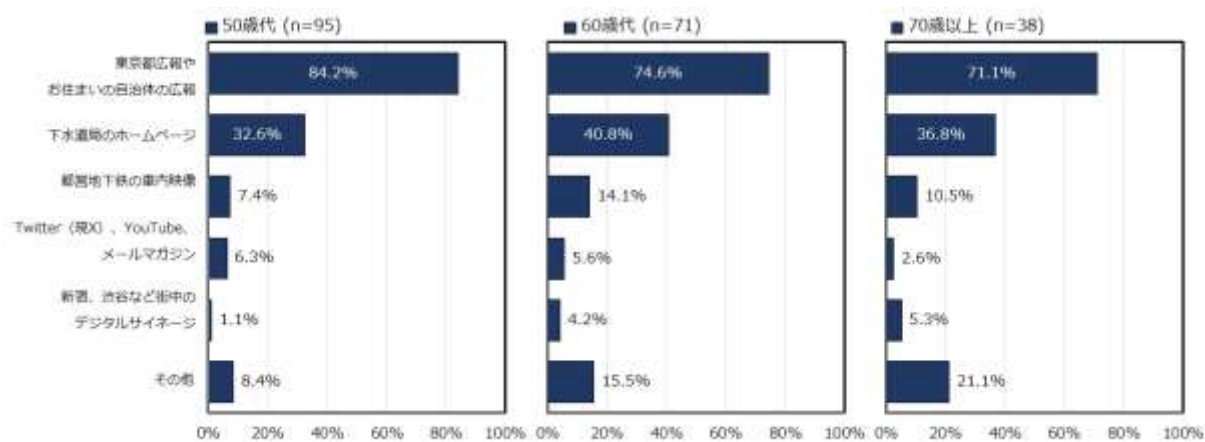
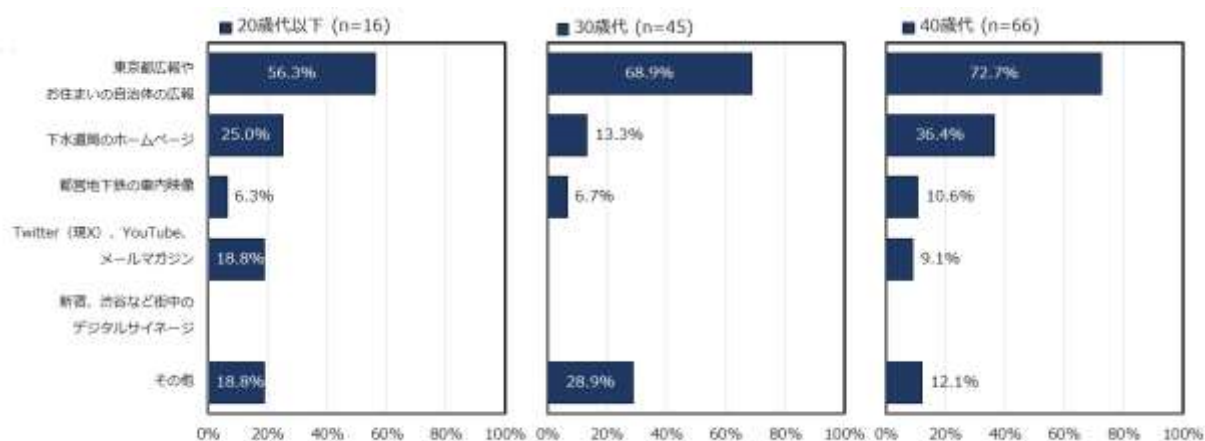
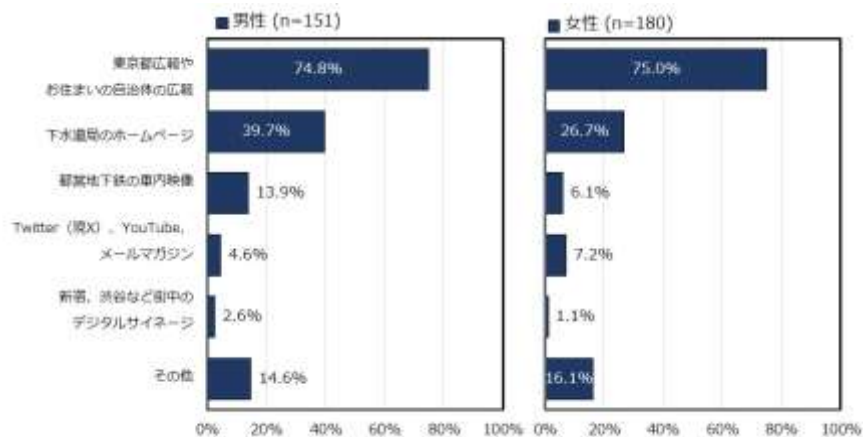
(5) 浸水対策の認知経路

- ◆ 局が紹介する浸水対策を「知っている」と回答した 331 人の認知経路は、「東京都広報や自治体の広報」が 74.9%と最も高く、次いで「下水道局のホームページ」が 32.6%だった。
- ◆ 男女別では、「下水道局のホームページ」と回答した割合が、男性の方が女性より 13.0 ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、いずれの年代においても「東京都広報や自治体の広報」が最も高く、特に 50 歳代で 84.2%と高い割合だった。
- ◆ 地区別では、「下水道局のホームページ」と回答した割合が、23 区部の方が多摩地区より 11.3 ポイント高かった。

Q5-1 Q5で「知っている」を選択された方に伺います。下水道局が紹介する浸水対策をどこで知りましたか。(複数回答)



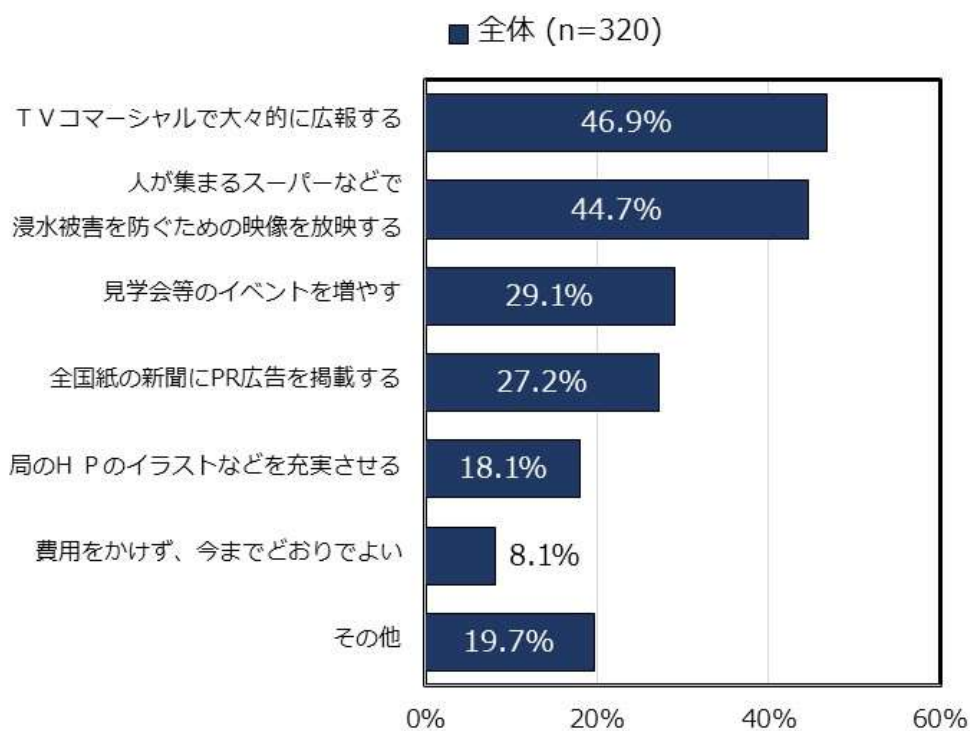
「その他」(50件)の自由記述の一部	
テレビやニュース番組で知った (25件)	・TVニュースなど。(60歳代男性、23区部)
周りの大人から教わった (7件)	・物心ついた頃に周りの大人が雨水にゴミが溜まらないように落ち葉など掃除していた。(30歳代女性、23区部)
新聞など (5件)	・ニュース東京の下水道。(60歳代女性、23区部)



(6) 浸水対策のPR方法

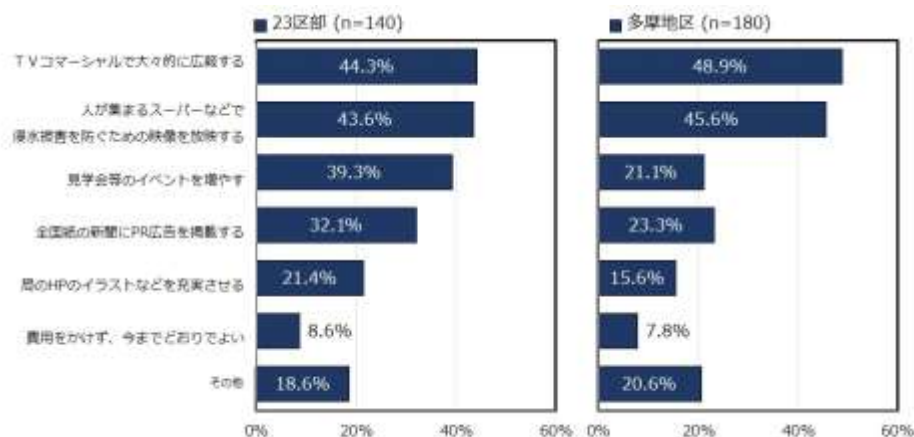
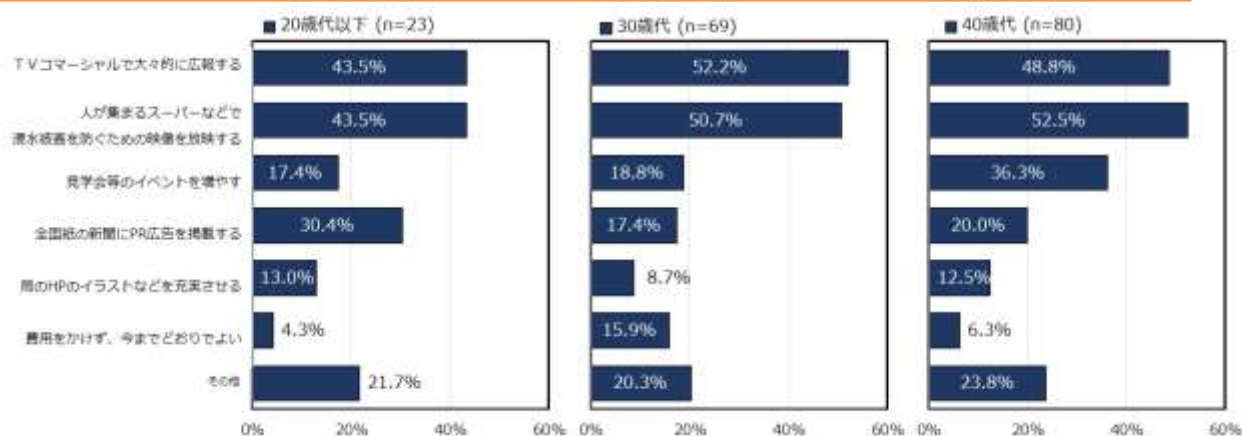
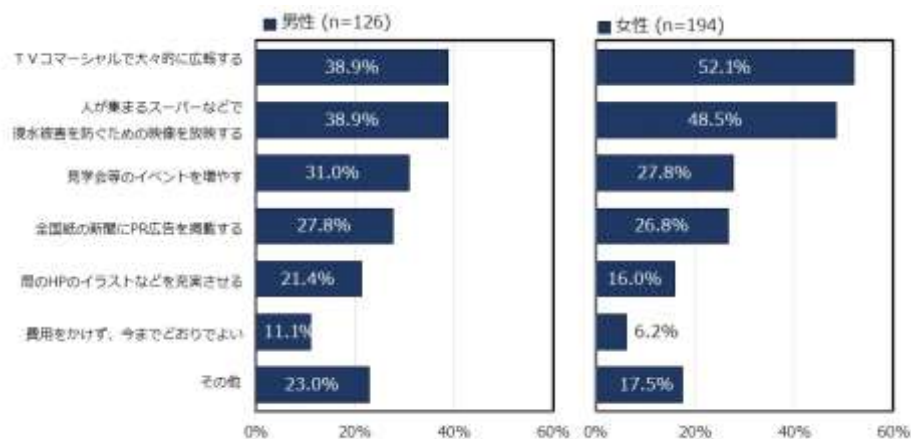
- ◆ 局が紹介する浸水対策を「知らない」と回答した 320 人が適当と考える浸水対策の PR 方法は「TV コマーシャルで大々的に広報する」「人が集まるスーパーなどで浸水被害を防ぐための映像を放映する」が多かった。
- ◆ 男女別では、「TV コマーシャルで大々的に広報する」「人が集まるスーパーなどで浸水被害を防ぐための映像を放映する」について女性の方が男性に比べ回答の割合が高い傾向があった。
- ◆ 年代別では、「人が集まるスーパーなどで浸水被害を防ぐための映像を放映する」について、30 歳代、40 歳代が他の年代に比べ回答の割合が高い傾向があった。
- ◆ 地区別では、「見学会等のイベントを増やす」と回答した割合が、23 区部の方が多摩地区より 8.8 ポイント高かった。

Q5-2 Q5で「知らなかった」を選択された方に伺います。都民の皆さまが自ら対策をしてもらうためのPRとして、どんな方法が適当と思いますか。(複数回答)



「その他」(91件)の自由記述の一部

SNSの活用(17件)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に、SNSやわかりやすいイラストなどで呼びかけを行う(20歳代女性、多摩地区) ・YouTubeで映像を広める(50歳代男性、23区部)
都や自治体の広報(9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の広報紙の一面を使い、PRする。(70歳以上女性、多摩地区)
ニュース等と連動してPR(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨予想のニュースや天気予報からアクセスしやすい工夫。(30歳代女性、23区部)

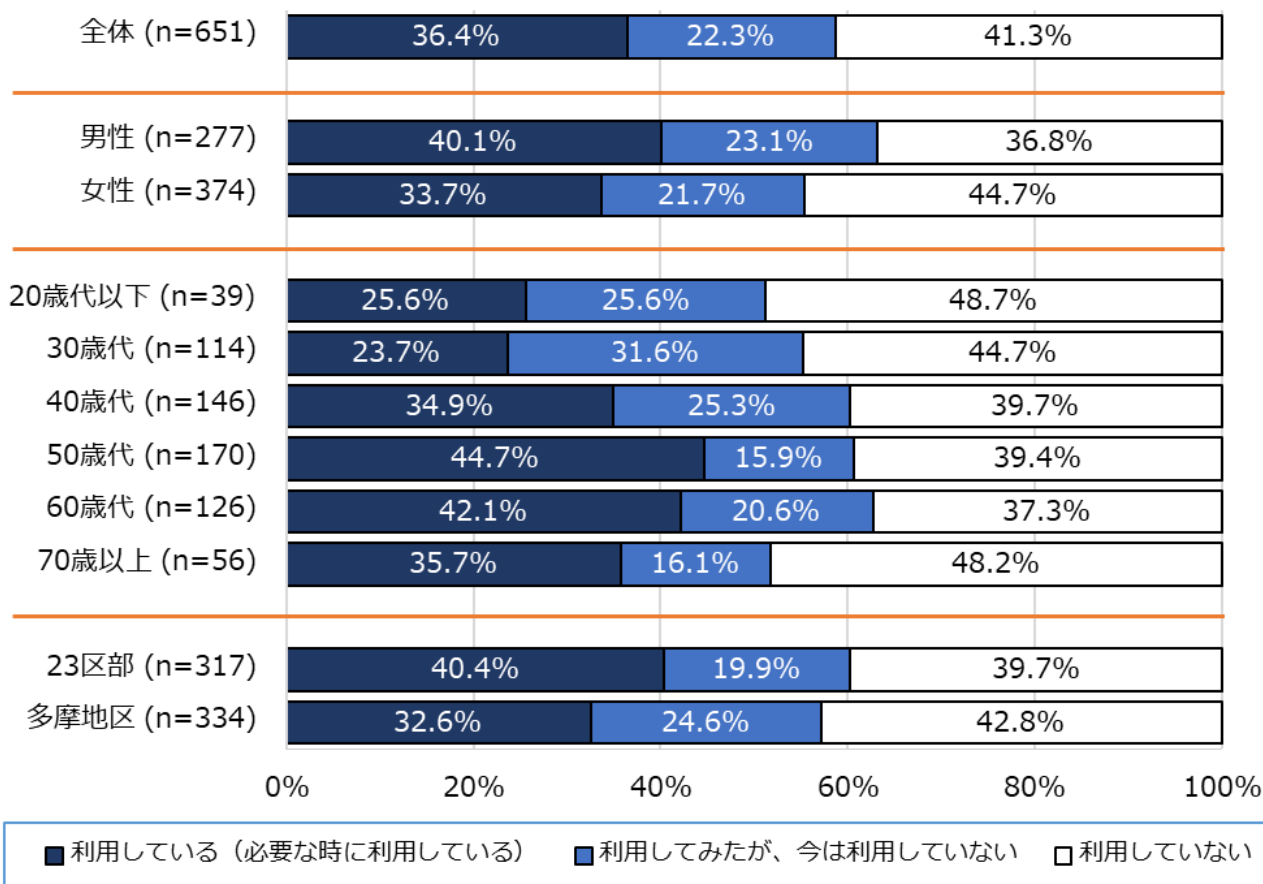


3 降雨に関する情報について

(1) 「東京アメッシュ」の利用

- ◆ 「東京アメッシュ」の利用経験者（利用している、利用してみたが今は利用していない）は 58.7%で、第1回アンケートの利用経験者割合（「東京アメッシュ」を知っている（利用している・利用したことがある）24.5%）よりも増加した。
- ◆ 男女別では、「利用している」と回答したのは男性が女性より 6.4 ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、20 歳代以下と 30 歳代で「利用している」と回答した割合が 2 割台と他の年代に比べ低い結果となった。
- ◆ 地区別では、「利用している」で 23 区部の方が多摩地区より 7.8 ポイント高かった。

Q6 あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか。（単一回答）

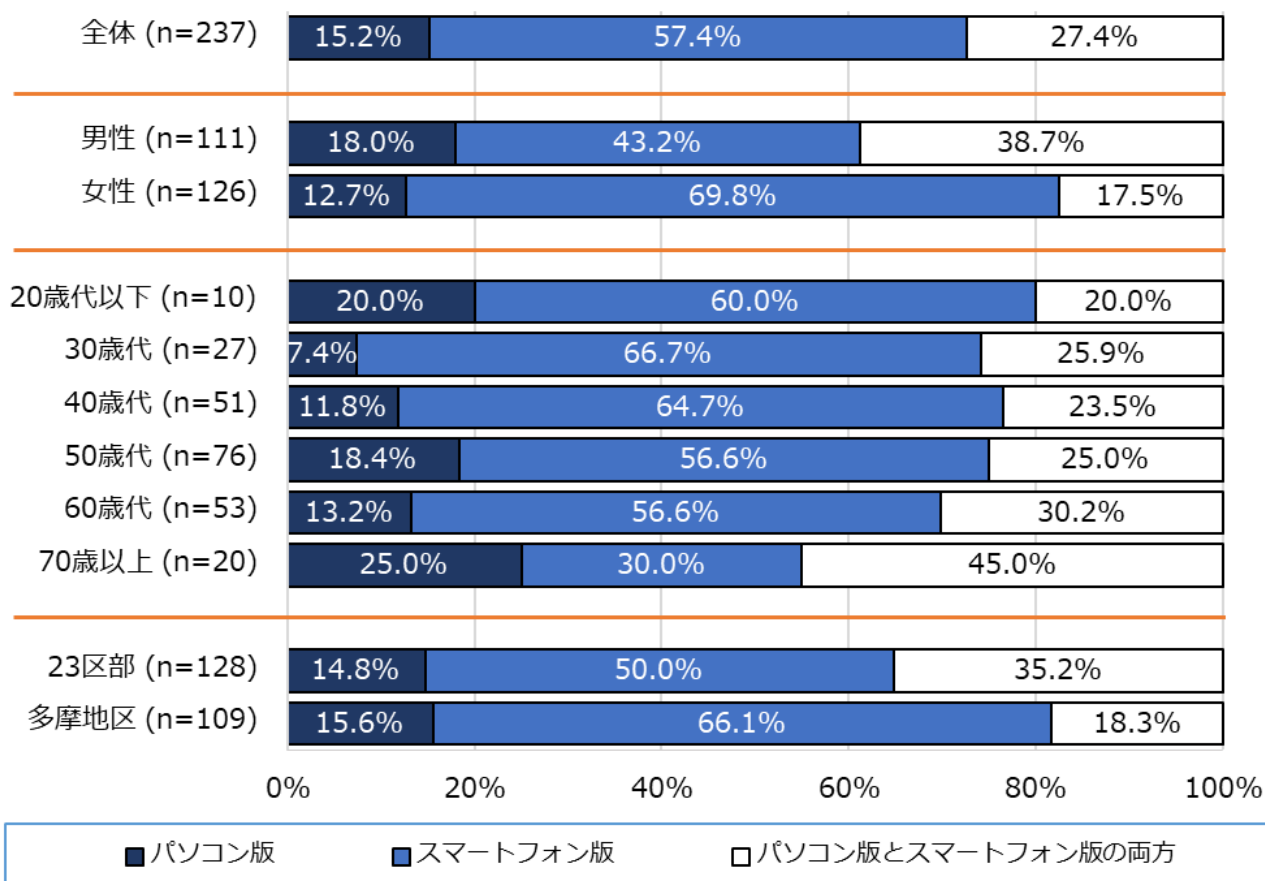


(2) 「東京アメッシュ」の利用タイプ

- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 237 人は、スマートフォン版の利用が多かった。
- ◆ 男女別では、「スマートフォン版」の利用は男性が 43.2%、女性が 69.8%と、女性が男性より 26.6 ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、「スマートフォン版」の利用は 30 歳代と 40 歳代が 6 割台半ばから 7 割近くと多かった。
- ◆ 地区別では、「スマートフォン版」の利用は多摩地区の方が 23 区部よりも 16.1 ポイント高かった。

Q7 Q6で、「利用している（必要な時に利用している）」を選択された方にお尋ねします。

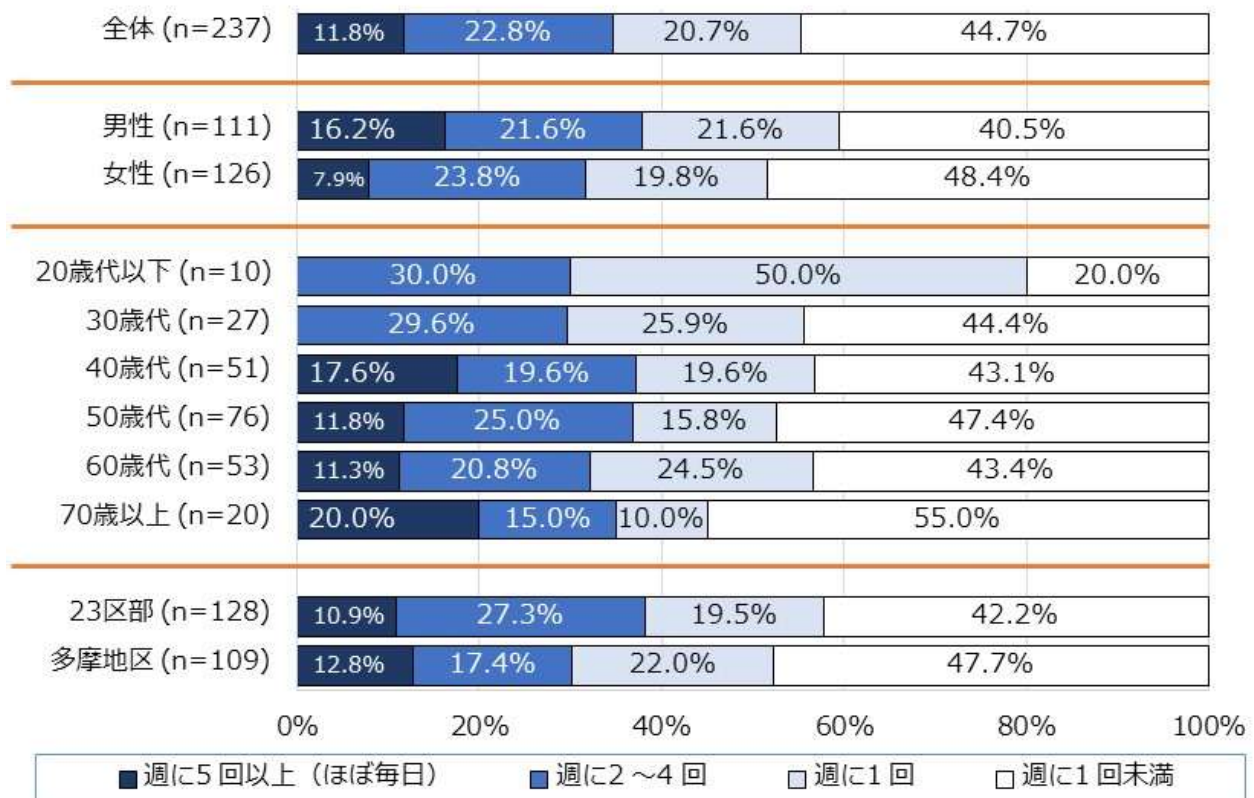
Q7-1 あなたは、「東京アメッシュ」について、パソコン版、又は、スマートフォン版のどちらを利用していますか。（単一回答）



(3) 「東京アメッシュ」の利用頻度

- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 237 人の利用頻度は「週に 1 回未満」が最も多かったが、3 割台半ばの方が週に複数回使用すると回答した。
- ◆ 男女別では、男性の方が女性よりも利用頻度が高かった。
- ◆ 年代別では、70 歳以上の年代で「週に 1 回」か、それ以上と回答した割合が 4 割台半ばと他の年代と比べ低かった。
- ◆ 地区別で傾向に大きな違いはなかった。
- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 237 人の半数以上が「週に 1 回」か、それ以上と回答した。

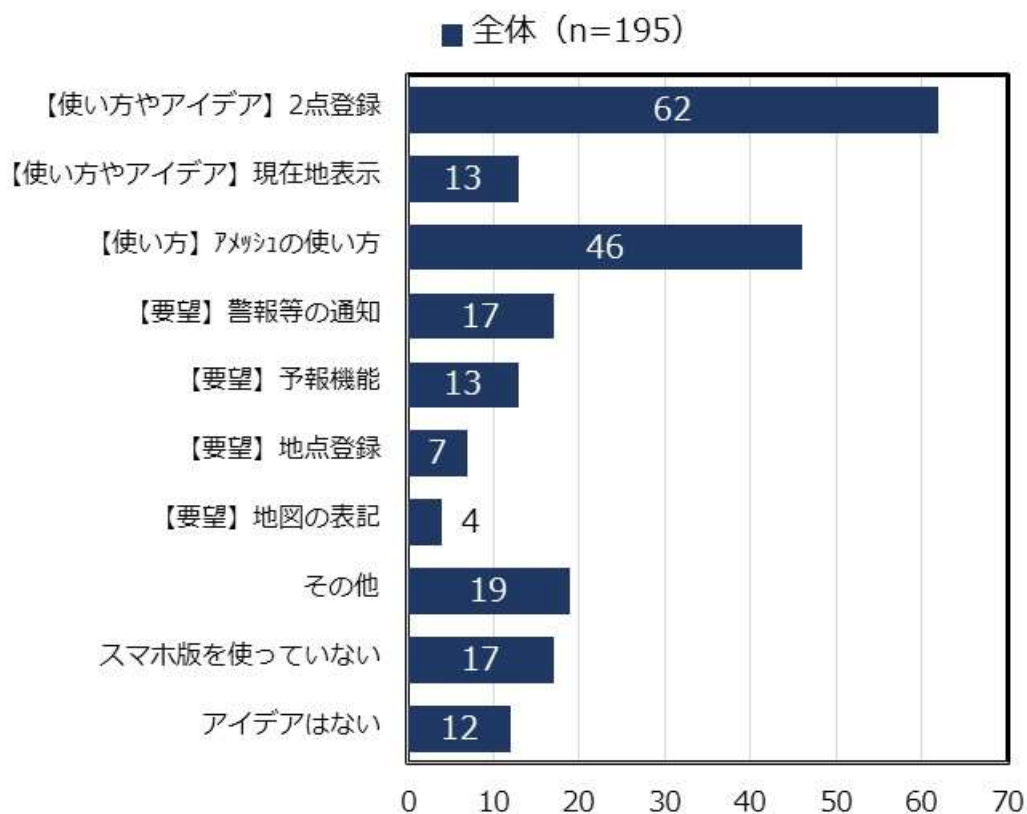
Q7-2 あなたは、「東京アメッシュ」をどのぐらいの頻度で、利用されていますか。（単一回答）



(4) 「東京アメッシュ」(スマートフォン版)の機能活用

- ◆ 東京アメッシュのGPS機能に関する設問に対して、自由回答は195件だった。
- ◆ スマートフォン版の機能を活用した使い方や使い方に関するアイデアと、「東京アメッシュ」の普段の使い方や付加してほしい機能への要望が挙げられた。

Q7-3 「東京アメッシュ」スマートフォン版は、スマートフォンのGPS機能を活用して、地図上の現在地の表示や、任意に登録できる2地点までの降雨状況が一目で把握できるようになりました。この機能を活用したあなたの使い方や、使い方に関するアイデアをお聞かせください。(自由回答)



●使い方や使い方に関するアイデア等

2点登録 (62件)

- ・2地点までの降雨状況が一目で把握出来ることにより、現地点からこれから移動する登録地点は雨が降っているか確認出来るので、傘を持って行った方が良いのかどう判断する基準にしています。(30歳代男性、23区部)
- ・自分の住まいと子の仕事場が都内なので降雨状況を知りたいので2地点を登録した。孫を住まいで預かっているためより安全に過ごすためにはお互い注意して暮らしていきたいために登録活用している。(60歳代女性、多摩地区)

現在地表示 (13件)

- ・移動の多い仕事をしているため、GPS機能を活用して現在地の降雨状況がすぐにわかるようになったのは便利。(50歳代女性、23区部)

アメッシュを利用している (46件)

- ・大雨の時は、外出で屋外を歩く時間を調整したりしている。(60歳代女性、23区部)
- ・出かける前の空模様が気になる時に雨雲の動きを確認しています。これからどのように雨が降ってくるのかを確認するのによく東京アメッシュを利用しています。(50歳代女性、多摩地区)

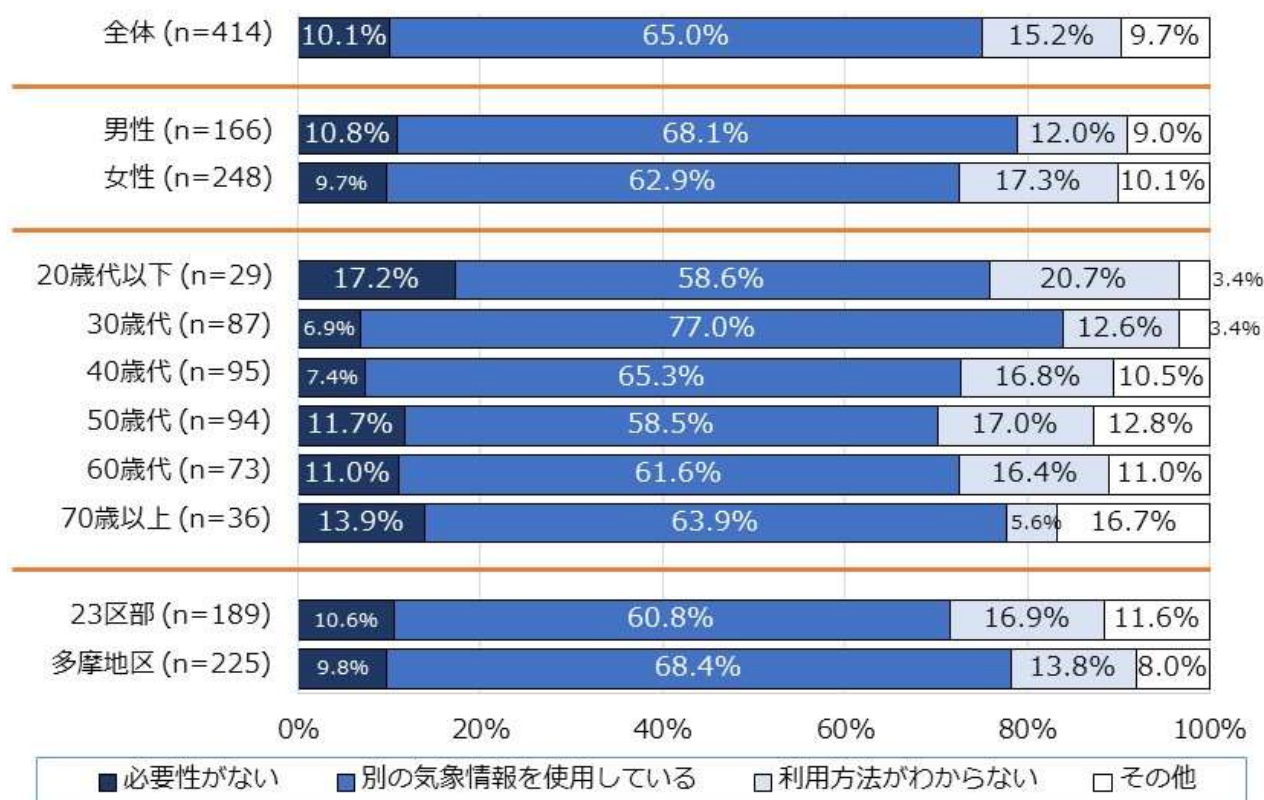
●要望等

警報等通知 (17 件)
<ul style="list-style-type: none">・急な雨が近づいているときに「あと〇〇分で雨が降ります」等のお知らせがあると助かります。(30 歳代男性、多摩地区)・現在地に雨雲が近づいてきたら警告の通知をできるようにしてほしい。(40 歳代男性、23 区部)
予報機能 (13 件)
<ul style="list-style-type: none">・3 時間後くらいまでの予測も出来るようになると、さらに便利だと思いました。(40 歳代女性、23 区部)
地点登録 (7 件)
<ul style="list-style-type: none">・家族用には、2 地点では少ないかもしれないです。3.4 地点必要な家庭に対応できた方がよいように思います。(50 歳代女性、23 区部)・住所の Input で、地点登録ができればいいと思います。(60 歳代男性、多摩地区)
その他要望について (19 件)
<ul style="list-style-type: none">・東京アメッシュはとても便利なので、SNS 等で発信して、認知度をあげると、さらに利用者が増えると思う。(40 歳代女性、23 区部)・カーナビと連動したら雨がどこまで降っているのかわかるから便利だと思う。(40 歳代男性、多摩地区)

(5) 「東京アメッシュ」を利用しない理由

- ◆ 「今は利用していない」「利用していない」と回答した414人の利用しない理由は、「別の気象情報を使用している」が最も多く、「必要性が無い」との回答は1割、「利用方法がわからない」との回答は2割近くだった。
- ◆ 年代別では、「別の気象情報を使用している」は年齢が高くなると減少する傾向があるが70歳以上になると20歳代以下と同等の割合だった。

Q8 Q6で、「利用してみたが、今は利用していない」及び「利用していない」を選択した方に伺います。あなたは、なぜ、「東京アメッシュ」を利用しなくなった、又は、利用していないのですか。(単一回答)



「その他」(53件)の自由記述の一部	
知らなかった/忘れていたため (13件)	・知らなかったが今後使用したい (70歳以上男性、多摩地区)
他のアプリ/方法を利用しているため (4件)	・情報は良いと思いますが、画面が見つらいので別の気象情報を利用している。(50歳代女性、23区部)
必要がない (6件)	・近隣に河川はなく洪水も起きたことがないので。(60歳代男性、多摩地区) ・真剣に情報を収集しなければならないと思われるほどの状況に遭遇していない。(60歳代男性、23区部)
その他 (16件)	・アプリになればもっと利用してみたい。(60歳代女性、多摩地区) ・小さな子供がいて見たいときすぐ見られない。(30歳代女性、多摩地区)